

くらしと教育をつなぐ

We

1995 5

特集

身体のルネッサンス

インタビュー「共鳴する身体」
片山洋次郎、「もう普通の
授業には戻れない」久保敏彦。
犬は悩まない（南野忠晴）、
ホリスティック教育は「い
のち」の教育（手塚郁恵）、
連載：居場所考（水田宗子）、
シネマの魔（武田秀夫）、木
を植えた日（蒔田直子）他。

女と男の家庭科新時代

女性のデータブック 第2版

井上輝子 編
江原田美子 編

●女性の現在をデータで読む

定価三〇〇円

日本の現代女性と彼女たちをとりまく環境を、見やすい図表と専門研究者の簡潔な解説で活写する。女性問題・女性史のサイロリターチャーとして、ソースブックとして広く受け入れられた初版を、データをさしかえ項目を組み替えて、装いを新たにしました。
〈新設項目〉夫婦で異なる老後生活のイメージ／女と男で違いのある生活時間／高齢女性の暮し
〈新しいコラムから〉婿外子の差別／夫婦文化と母子文化／お葬／アンペアドワーク／女性のエンパワメント

男女同一賃金

中島通子 著
山田省三 著
中下裕子 著

定価一八五四円

●賃金差別をなくすためには……
均等法が施行されて一〇年になろうとしているのに、女性の賃金が非常に低いのはなぜか。諸外国で実現されつつある「同一価値労働同一賃金」は日本でも可能だろうか。その実際と行方を検証する。

わかりやすい育児休業法新版

労働省婦人局
法人福祉課編著

育児休業を取得しやすいように、休業期間中に給付金が支給されることになると、条件整備がすすんだ。この改正点を簡潔に解説するとともに、巻末に育児休業申請書の書式例を収録して便を図った。

わかりやすい改正年金法

厚生省年金局
年金課編著

生活に直結する改正年金法をわかりやすく解説する最新の書！支給年齢の繰り下げ、給付水準の見直し、保険料の値上げなど、老後に大きな影響を与えるその内容を立法担当者が具体的に明らかにする。



有斐閣 創刊30周年
定価は税込み
東京・神田・神保町2 刊:03-3255-6811

大月書店

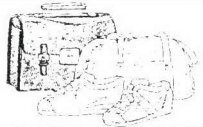
東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651(代表)

男女が学ぶ 家庭科の授業

●多様なテーマ、豊富な教材、まさに授業実践の宝庫

中学校篇

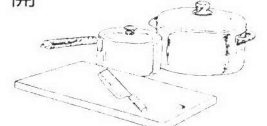
家庭科教育研究者連盟編 B5判 定価3800円



新学習指導要領の全面実施にとめない家庭科は大きく変わりつつあり、何をどう教えるかが鋭く問われています。本書は、こうした新しい局面に対応し、好評を得た旧版「たのしくわかる中学校家庭科の授業」を全面的に書き改め、大幅に増補して、まったく新しい本として刊行。

見やすく、授業に使いやすいB5判のワイド編集

- ▼もくじ
- 1 これからの中学校家庭科教育
- 2 家族・家庭領域の授業展開
- 3 被服領域の授業展開
- 4 食物領域の授業展開
- 5 住居領域の授業展開
- 6 人間発達・保育領域の授業展開



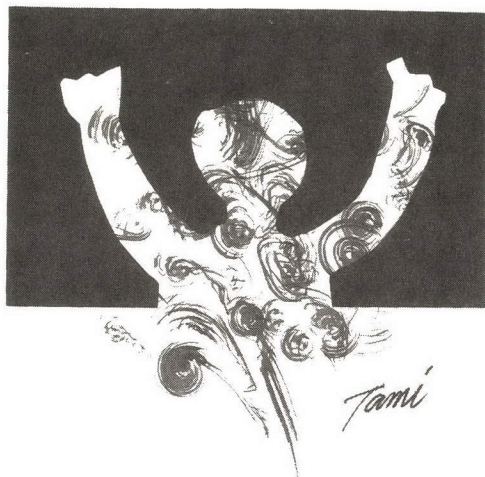
小学校篇 ●好評発売中 全2冊・セット価5600円

くらしと健康をつなぐ

We

5月号

特集 身体のリネッサンス



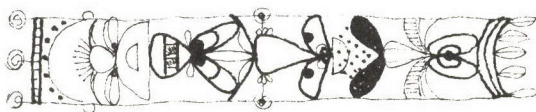
《インタビュー》 複眼をみる

片山洋次郎さん（聞き手／稲邑恭子）

「共鳴する身体」 44

連
載

- シネマの魔 武田 秀夫 24
- 北京からの風 船矢 佳子 28
- ホスピタル千夜一夜物語 森津 純子 30
- オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎 53
- アタマが怒りんぐ 柴崎 昭則 54
- 木を植えた日 蒔田 直子 56
- 居場所考 水田 宗子 61



◇ 編集後記 64

特集 身体のリネッサンス

〈インタビュー〉 久保敏彦さん (聞き手/稲邑恭子)

もう普通の授業には戻れない

——生徒といっしょに^{レッスン}実演する 4

☆ 犬は悩まない 南野 忠晴14

☆ ホリスティック教育は「いのち」の教育 手塚 郁恵20

女と男の家庭科新時代

■家庭科——遊ゆう・惑わく 蔵本佳子・前澤やよい32
 —クラスの空気がつながっていく—

■家庭科ウォッチングさせてください 松本のり子38

■フェンスを越えて 小平 陽一39

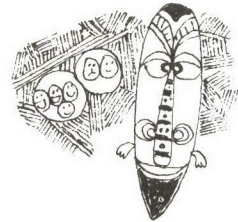
■知りたい 知らせたい 共学家庭科 芦谷 薫40

■これでバッチリ家庭科玉手箱 浅井由利子・小林由佳42

もう普通の授業には戻れない

——生徒といっしょに実演する——
レッスン

久保敏彦 さん



インタビュー

保健の授業に実技（レッスン）

稲邑 久保先生の保健の授業が大変ユニークだとうかがって、お聞きしたくてまいりました。私は、保健の授業のことは、ぜんぜん覚えていないんですが……。

久保 僕自身もそうですよ。学校のロッカーに教科書を置いていく「置き勉」は、保健が一番多いんだそうです。生徒に今まで習った保健のイメージ調査をしてみると、まず「つまらない」、「テストのための暗記科目」などの意見がほとんどです。僕も実は一番退屈だった教科なのに、こ

（聞き手／稲邑恭子 まとめ／吉田静恵・稲邑恭子）

んなに力を入れるようになってしまったのが不思議なんです。

保健といえば、人間のからだを機械の部品のように教えるだけで、生きる力とか、人間の素晴らしさを具体的に教えてこなかったと思うんですよ。

「雨降り保健」と言って、体育が雨でできない時、突然保健の授業になってしまうというのは現実の話です。それで「何をやったの？」と聞いてみますと、「ビデオが多い」

と言っんです。ビデオ教材は確かにいいものもありますが、教師の保健に対する姿勢とか情熱といった、人間的な部分が生徒に伝わるかどうかと思うと疑問ですし、僕は個人対個人の関係を大事にしたいと思っています。

それに教育研究会とか、いかにも先生の集まりといった実践報告会などに行っても、僕自身あまり心を動かされるものに出会えなかった。確かに行けばそれなりに学ぶものはあるのだけれど、行くたびに、自分の授業のオリジナリティがなくなってしまうような気がして、ここ五、六年、そのような場からは遠ざかっています。ただ、自己満足で終わってしまったてはいけないと思うので、毎回学習の終わりの四、五分を「感想文タイム」にしているんです。

四×九センチの小さな紙に、授業の感想や意見・質問から批判も大いに歓迎、何を書いてもらってもいいことにしています。質問には返事を書いて、一クラス全員分をB4の紙二枚に貼ってプリントし、次の学習の時配ります。

顔が見える文ということが大切だし、名前を出して堂々と自分の意見を表現する習慣を身につけて欲しいので、必ず名前を書いてもらうようにしています。最初は量的にも質的にも少しもの足りない生徒いますが、二学期頃にな

ると充実してきて、「日頃話さないクラスの人の考えも分かっていい」とか「自分が出せるようになってきた」など、今後も続けたほうが良いという意見がほとんどです。

この感想タイムの時、BGMを流すんです。選曲はまったく僕の趣味ですが、学習内容と少し関連している曲にします。例えば、「ジャズはどうして生まれたのか」の時は『スタンドバイミー』とか、「世界の踊り」の時はアンデス地方のフォルクローレ、『コンドルは飛んでいく』など。こうして書いてもらう中で、時には褒めてくれたり、僕自身考えさせられる意見もあって、授業を進めるのに大切な手がかりとなるんですね。

稲邑 実際の授業はどういうふうに進めていらっしゃるのでしょうか。

久保 僕が英会話学校に通っていたとき、レッスン中に鉛筆を持つな、板書するのは、最後のコピー・タイムでと言われたんです。それで、武蔵高校でも最初はコピー・タイムを作って一年間やってみたんですが、結局その時間もつたないので、次の年からレジュメを作ることになりました。武蔵高校に来て十二年ですが、講義中心の一斉授業をやってみて、なんか自分を出し切れないなということで、

二年目に少しレッスン（実技）を入れてみて、まとめを書かせたら、生徒たちの反応が非常に良かったんです。それで、三年目からレッスンをどんどん入れて、レッスンのみにしてから、七、八年でしようか。このスタイルは、多分これからも変わらないでしょうね。

そのレッスンの時間が必要なために、板書する内容をB4サイズ一枚にまとめて、授業前に配るんです。この授業内容のレジュメと皆の感想文二枚を、糊付けして冊子にしてゆきます。「プリントがだんだん厚くなって、なんだか手作りの本みたいでうれしい」という声をよく聞きます。

今はワープロでのプリントが多いので、「手書きなので読もうとする気になる」と書く生徒がいるので、本当はフロッピーに入れたいんですが、毎年少しずつ書き直していきます。書くだけでも二、三時間かかるので、資料や文献調べをしていると、一週間かかりきりっていう感じです。

稲邑 保健の授業で実技といえますか、レッスンは珍しいですよ。

久保 ここ十年ぐらい、大脳生理学者たちが、今までの左脳中心の一斉授業から、もっと右脳型の授業が大切と言いはじめ、認知心理学でもイメージ学習の研究がすすんでいま

す。その共通点が、講義だけの授業でなく、レッスンのイメージで学習する方法なんです。それも、教師だけがするのではなく、生徒と一緒に、時には生徒が行うことに意味がある、と。「レッスンをしている時って、クラスが盛り上がり、一体感を感じる」と書く生徒が多いですね。

生徒が僕の授業を受けると、「テストのときに勉強しなくても答えが書ける。問題を見ると、映画のシーンのように、その日の授業内容が浮かんでくる」と言います。テストは決してやさしくないし、他の教員に見せましたら、「これあ、うちの生徒にはできないなあ」という難しさなのに、平均で八〇点から九〇点ぐらい、百点の子もいて「君はどれくらい勉強したの」と聞くと、二、三時間って言うんですね。多くの生徒は勉強しなくても書けると言うんです。これは右脳型の学習の特徴なのかなあと。

これは、最初の授業に配るレジュメ（レジュメの左側には授業の考え方、右側に予定表）で、一年間の予定です。

一時間一テーマになっています。

稲邑 どれも楽しそうですね。

久保 保健は週一時間で、一年間三五時間となっていますが、実質二七、八時間です。ここ五、六年は、いつも二学

年を持っています。

最初に「文化」を学んでおくのは、民族や地域により健康の考え方をはじめ、生活様式の違いから生じるいろんなことが見えるようになるからです。

次は、自分のからだの豊かさをまず味わうところからと考え、五月の青空の下、屋上での野口体操から入ります。

「自分のからだがかんなに気持ちいいものだ」と初めて知った」とか、「家の人にやってみると喜ばれた」などと書いてくる生徒が多く、毎年ベスト3に入るテーマのひとつです。中には「どうしても力が抜けなかった」という生徒もいますが、「大切なのは、自分のからだに出会うことだから、力が抜けないからだに出会うこと、それで十分」と話しています。

心シリーズは、四つのシリーズの中で一番生徒が熱心です。自我に目覚め、人生を考え始める年頃ということもあります。自我の学習の進め方にも慣れ、どんどんレッスンに参加してくれそうです。

暮らしシリーズは、もう少しカリキュラムも考え直さなくてはならないと思いますが、ホリスティック・ヘルスにかなり力を入れています。僕自身も腎臓の人口透析者で、

こうして仕事をしていることもあるので、生徒の皆も今後どんな病気や障害を持つかわからない、しかしそのような人生の中で「自己実現」が大切なんだと考えてもらっています。星野富弘さんの美術館にも行き、彼の生き方から学んでいます。また、障害者やその家族とボランティアを乗せて走るフレンドシップトレイルが、毎年一月三日前後に、全国で現在七四本走っていて、「ひまわり号」というんですが、実は名前を付けたのは僕なんです。武蔵高校の生徒もボランティアとして、何人も、車椅子を押ししたり、プラスバンド部の生徒が楽器を持って参加したりしてくれました。

稲邑 透析を受けるようになられたのは？

久保 三月一七日で三年過ぎました。月水金の夜、仕事が終わってから、病院で五時間透析をしています。四月から学芸大学の大学院に行く予定ですが、今よりも忙しくなりそうで、命を縮める行為だと皆に反対されています。僕は以前、大学院の体育社会学研究室で今は故人になられた竹之下休蔵先生から、「楽しさとは何か」という「プレイ(遊び)論」について研究指導を受けたのですが、保健の学習にこの理論を取り込んだら、生徒たちが「保健がこんなに

楽しいものだとは思わなかった」とよく言うんです。そこで、四〇を越えたのを機会に、使命感(笑)とまではいかないけれども、僕の保健の授業を少しまとめて、「ちょっとやってみようかな」と思ってたくださる先生方に活用していただければと思い始めたんです。

文化シリーズ

稲邑 文化シリーズはどんな授業になるのでしょうか。

久保 「文化とは何か」と言われても、分かるようで分からない。そこで具体的なもので考え始めます。アメリカでジャズやカントリーはどうして生まれ育ったのか。次に世界の各地域にはいろんな踊りがありますが、どうして踊りが生まれたのか。三回目は最後に、スポーツはどうしてできたのか。それらを学ぶ中で文化とは何かを考えていきます。

アフリカの黄金海岸から連れてこられた黒人たちは、太鼓や小石を詰めた筒、馬の顎の骨、樽などを叩いたり、調子よく揺すったり、引っ掻いたりして、土曜から日曜の夜にかけ、酒の勢いを借り、盛大な祭り、果てしない輪踊りをコンゴ・スクウエアを中心に広げていった、と史実に書かれています。

そこで授業でも、二本のスプーンの背を打ち鳴らすパーカッション、ウォッシュボードなど、僕のいくつかの楽器で、生徒と一緒に即興演奏します。生徒もいきなりですが、リズムだけですからやってくれるんですね。ここで教室内に笑いが溢れ、空気がやわらぎます。それから年代順にジャズのテープを流し、途中でピアノとドラムのテープに、僕のウッドベースで、ジャズを演奏します。生徒が「オオッ！」となるんで、「いやあ、僕はまあ『びあ』っていう雑誌にも出ていたんだよ」と(笑)。これは、黒人がギターが手に入らないので、ブリキの板に針金を張って作ったのが始まりと言われているバンジョウ。(バンジョウを弾き、おおきなノッポの古時計と歌って)こんな音です。バンジョウも実際にやって、こんなふう(バンジョウの演奏テープ『オールド・マイ・ケンタッキー・ホーム』を流す)使われるんだよって。

一方では、イギリスなどからパラチア山脈の南部山間地帯に移住して来た人たちが、故郷の音楽を楽しんで(ギターを弾きながら、かあもつ列車にゆらあーれて♪と歌って)、ブルーグラスと呼ばれていたものが、カントリーミュージックに分かれていくことを、実演とテープで聞いて

もらいます。これはフラットマンドリン（テープを流す）ですが、柔らかな音で、コーラスのアメリカカンヨーデルととても合います。仕事から疲れて帰ってきて、とうもろこしの焼酎、バーボンを飲みながら歌うんだと。

稲邑 これ、全部先生の楽器ですか。

久保 まだまだあるんですよ。アメリカのオートハープ、ロシアのバラライカ、アンデス地方のケーナやチャランゴ、インドのヘビ使いの笛、踊りの時使うアフリカのトーキングドラムなども持っていて、授業で使います。

踊りは、生徒と一緒に踊ります。学生の時、剣道部の練習が水曜日休みだったので、週一回体育会のフォークダンス部に二年間入っていたから、五〇曲ぐらい踊れます。

日本もいろいろ踊りがあるんだけど、どうしてこういう身振りの踊りが多いのだろう。沖縄もそうだし、ポリネシアも似ているのはなぜだろう。日本の民謡は、「こおおもろでてかあー♪」（『小諸馬子唄』を歌う）と、山峡に響くように延ばしていく。

稲邑 いい声ですねえ。

久保 恐れ入ります（笑）。それで、たんぼがあって、畦道がある。畦道を歩き、稲よ育てよ、育てよという身振り

ができてきた。ところが同じような振りでも、沖縄では、（『島唄』のテープを流しながら）やっぱり歩き、手も振るんですけど、違うんですね。これはどこが違うんだろう。あれは船に乗っていて、手で、転ばないようにバランスをとっている。生活、いわゆる文化が違うと、同じ「歩く身振り」でも踊りが違ってくる。他の国の踊りも生徒と一緒に踊ってみる。例えばフラメンコ……。

稲邑 フラメンコまで踊られるんですね。

久保 ええ。表打ちという高い音での打ち方があります。たん、たん、たたたん。その間に、裏打ちという低い音を、んた、んた、んたた、を入れていく。「オーレ」というのは「太陽」という意味もあり、この二人の手拍子のアンサンブルに僕のギターをつける。歌の途中に「オーレ！」と叫ばれる。教室は爆笑です。終わったら、「ムウヴェーオン」（「素晴らしい」と皆で言う。基本的なタップは、スリータップから入るから（タップを踏む）、こういうところからいろんなタップになっていく。

ジプシー、今はロム（「人間」と言いますが、ロムの深い人生の哲学がこのフラメンコに流れている。本物の踊りを見たい人に、新宿の『エルフラメンコ』のお店の場所

まで書く。実際に家族で行ってきた生徒も時々います。もう授業なのか、何やってるのか分かんない感じですね。

次はスポーツで文化を考えようということで、いくつかのスポーツのルーツを再現します。例えばバスケットボール。これは冬のトレーニングとして考案されたスポーツですが、古代のメキシコでは、太陽が昇り、天と地の狭い境界を通して、やがて日没となる。太陽が円滑に狭いところを通っていけるように、太陽が天の頂上にくる前に、人間が小さな環にボールを投げ入れた。これで太陽は活力を与えられ、天の太陽も楽々と狭いところを通っていくという説があつて、この説を教室内に再現するんです。机の上には紙で作った山脈を置き、太陽が昇るにつれ、背景も変えていく。『風の谷のナウシカ』と『天空の城ラピュタ』の音楽を編集して流し、だんだん夕焼けのシーンとなっていく……。それで、生徒も内職どころではなくなってしまうんです。「先生準備が大変でしょう」「うん、大変だよ」「でも準備も授業も楽しんでるみたいですね」「ああ、楽しませてもらっている」と。

「文化」なんて考えてみれば限りのない題で授業をしようというのはすごく難しいことだと思ふのに、だんだん分

かってきてしまうのは何故でしょう？ 私たちに伝えようとするために、踊りまでしてくる先生だからかな」とか、「文化に高い低いということがないことがわかってきた。だから一部の人を文化人というのはおかしい。人間の生活そのもの、すべてが文化ではないか」というような感想を読むと、僕の思いが伝わっている手応えを感じてうれしいですね。

ペルソナの授業

稲邑 ペルソナの授業がユニークなので伺いたいのですが、**久保** これがペルソナ（仮面）です。

竹内敏晴さん（演出家・人間関係学教授）の演劇研究所で行っていたワークショップに、これは細く長く七年間も通いましたが、その頃、メンバーと一緒に府中にお住まいのお面づくりの松延さんのご自宅に伺い、数日間、面づくりをしました。

授業では、「性格とは何か、人格とは何か」の時に使っています。性格のキャラクターは、ギリシャ語で「刻み込まれたもの」を意味し、人格のパーソナリティはラテン語に由来しています。ギリシャ劇で面をペルソナと呼んだも

のが、やがて劇における役柄、そして登場する人物をさすようになり、人格のことをパーソナリティーということになったと言われています。それならばということ、ペルソナをやってみようと、面をつけて動いたり踊ったりすることで、面がどうなるのか、何か伝わるものがあるのかみてみよう、となったのです。

ちょっとやってみますね。こんなふうに教室に大きな鏡を用意して、それらしい衣装も用意します。鏡を見ながら（音楽をかけ、面をつけ演じながら）ゆっくりやるんですが、こんなふうに僕がやって、「さあ、今度は君達の番だよ。誰かやってくれる人はいないかなあ」と言うと、最初は尻込みするんですが、覗き込んで、「やらない？」と言うと、「やります」って。それで黒板にざらりとかけてある中から好きな面をどうぞって、音楽は選んだ面によって、僕の感覚で選曲します。

動きは、能と同じようにゆっくりやるほうが表情が伝わるというようなことを言うと、ゆっくり動き、曲に合わせて踊り始めてくれます。お面が呼吸しているように見えて、まるでお面に息が吹き込まれるように感じる人が多いですね。演じ終わって、感想を聞くと、「小さな穴から見え

る世界は全然違う」って言います。見てる方も、「何もしゃべらないのに、お面が語りかけてくる」「背中がぞくぞくしてすごい」「同じお面なのに、かぶる人によって全然違って見える。これがパーソナリティーが出るということなのだろうか」などと、いろんな意見が出ます。

これは、僕が白い筒型のすっぽりした衣装を着けて被るんですが、小学校二年生の息子が、「お父さんがこれを被ると、黄泉の国から蘇ったみたいでゾクゾクする」というんです。もっと衣装も揃えたいし、お店に行ったりしても、民族着に何かいい衣装はないかなあ、ああ、数珠も欲しいなあ、という感じでやっています。

稲邑 教室が劇場になるんですね。

久保 どこかの場末の大衆劇場って感じですよ。

僕の授業は一回一テーマしかやらないから、生徒が何かで休むと、「先生すごく悔しい。友達からどんな授業って聞いて、聞けば聞くほど悔しかった」ってよく言うんです。そういう感想を聞くと、うれしいような、もう一回やってあげたいような。

このノリで、三学期のプレゼンテーションに入るとずいんですよ。人前で何かすることの喜びそのものです。そ

の方法は、寸劇やビデオ、人形劇、紙芝居、オリジナルソングなど多様で、「大変だけど、クラスのみんなの新しい面が見れて最高」といった声が多いんです。

生徒たちは、まず問題意識を整理して、仮説を立て、それから調査やインタビューにだけ、レポートを作ります。インタビューの技術や発表する時のレジュメの書き方、レポートの書き方も全部教えるんですが、短文にまとめるのは大変なことなんでね。レポートは五枚以内としているので、五枚だと本からの引用がなくなります。また、引用した場合は、何々の何ページからと最後に明記するのは文章を書く鉄則なんだと教えていくと、オリジナルの文章を書くようになります。大学生になると、こういったトレーニングがゼミナールで役に立ったと言われて、それを聞くとうれしいです。

発表は一人もいますが、グループは原則として三人まで、それ以上は僕を説得してからということにしています。

また、ジャズとカントリーの授業をするために、僕がどのくらいの時間をかけてきたかという、ヤマハジャズスクールのウッドベース科に週一回四年間通って、ジャズのライブハウスに何年も出ていて、その間ジャズを何曲も聞

いてきて、そうやって十数年かけたものを、わずか二〇分。カントリーは高校時代からずっとやってきて、それを二〇分。あわせて四〇分です。だから君たちも十二分の発表をするために、何時間もかけて、その上澄みだけ発表するものなんだ、発表するっていうのはそういうものなんだと話すんです。

無駄をたくさんすることが素晴らしいんだ。人生に無駄はないんだ。どこで何をすることになると、たとえ悪さをして警察のご厄介になったとしても、それは決して無駄じゃないという話をするんですが、一、二期期の授業で、僕の四〇分の授業にどれくらい時間がかかっているか感じてくれているから、それには異論がないですね。

何日も何日もかけて準備をして、リハールもして発表したもの、ビデオにとって、編集してあげるから家で家族と一緒に見なさいと言っているんです。

* 8月後半に久保さんが模擬授業をしてくださる予定です。詳細は改めてお知らせいたします。

* ペルソナについては、「体育科教育」(大修館) 95年6月号(近日常)に久保さんの詳しい報告が載ります。

(くぼ・としひこ 東京都立武蔵高校教諭)

年間計画表

▼一学期

I 文化シリーズ

- 1, アメリカのジャズやカントリー音楽の歴史で、文化とは何かを考える。
- 2, 縄くぐりと世界の代表的な踊りを踊ってみて、文化とは何かを深める。踊りと生活との関わりを考える。
- 3, スポーツ・レクリエーション・レジャーの学問的な意味をその言葉のルーツや文化との関係で考える。

II からだシリーズ

- 4, 青空の下「野口体操」で、自分のからだの豊かさを味わう。自分のからだ、他人のからだに出会う。
- 5, 「話しかけレッスン」で、声がからだにふれる道筋をみる。声は相手のからだに届いていく。
- 6, マザーグース、ギリシャ神話の男女おめ、東洋の心身一元論と気、オリンピックテストなど、西洋と東洋の身体観を比べてみる。
- 7, 進化論の反復説と解剖の話、筋肉の白筋と赤筋のこと。
- 8, 年代別トレーニング理論と成長ホルモンの関係。筋肉を動かすエネルギーのグリコーゲンとその補給方法。
- 9, スポーツマンの食事学。ウェイトコントロールの方法と、脂肪の構造とインシュリンの関係のつながり。
- 10, 筋力アップ、シェイプアップボディのための運動の考え方と実際のやり方、生活方を知っておこう。

▼二学期

III こころシリーズ

- 11, 知っておきたいコミュニケーション理論とその方法。
- 12, パーソナリティ・キャラクターとは何かを、仮面(ベルナ)劇で考える。
- 13, 自分の性格を知る「YG性格テスト」他。やりたくない人はやらなくてOK。結果は自分で分析してそのまま持ち帰る。プライバシー保護のため提出しない。
- 14, 自分を詩と絵を書くことで見つめる「連想詩画法」。
- 15, 詩「スキヤットまで」(谷川俊太郎作)で自分の言葉と気持ちを考える。自分の言葉に気持ちが込められているか。
- 16, 三学期に向けてフィールドワークとそのプレゼンテーションの方法について。生徒がフィールドワークをして作ったビデオを見ながらのオリエンテーション。

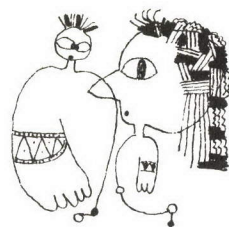
IV くらしシリーズ

- 17, ビデオ・障害者たちの専用一日電車「ひまわり号」ボランティアと障害を持って生きることを考える。
- 18, 健康とは何か、そのルーツと考え方。星野富弘さんの生き方。職業病と現代病、シンドロームなど。
- 19, ストレスとは何か。生活リズム・睡眠、夢分析など。
- 20, カウンセリング理論と具体的な方法をマスターする。
- 21, 左右脳の働き方の違いと、生活の中での上手な活用方法。左右脳を活用したスポーツ上達法、コーチング方法。
- 22, 環境問題、酸性雨、森林浴フィトンチッド(植物の免疫力のようなもの)と、テルペン(精油)、おいしい水とはどんな水。

▼三学期 「毎年すごく盛りあがり、笑いの連続です」

フィールドワーク(調査研究)とプレゼンテーション(発表)。

犬は悩まない



南野忠晴

■「知育偏重」と「身体のルネッサンス」

教育現場で「知育偏重」ということが声高に言われるようになって、もう随分になる。この場合の「知」とは、「知識」のことだろう。「知識詰め込み教育」という言い方も聞いたことがあるし、同僚の若手教員が、半ば自嘲気味に、「僕らのやっていることは、所詮、知識の切り売りですから」と口にするのも耳にした。僕は学校なんかに身を置いているものだから、「身体のルネッサンス」と聞くと、どうも、短絡的に「知育偏重」を思い出

しれないね。それならよく理解できる。まあ、そんなことはどうでもいいけど、この場合の「知」って何でしょう。どうも「知育偏重」の「知」とは違うみたい。

消息筋によると、『知の技法』というのは「ため込んだ知識の正しい使い方」を伝授する本だという。知識というものは、何か必要があつて身につけるものだと思つていた昔気質のあなた、驚いてしまうでしょう。いつの間にか時代は進んでしまったのですね。意味もなく蓄えられていく「知識」に埋もれて、若者たちは息も絶え絶え

してしまうようだ。そういえば、少し前に、『知の技法』という東大のテキストがばか売れるという出来事があつた。覚えてますか？ 僕も、友人の家でパラパラと見せてもらつたけど、なぜ、あんなにたくさんの方がこの本を買おうと思つたのかはわからない。読み物としては全然面白くなかつたもの。もしかしたら、大半の読者は、単に、「東大生気分」を味わいたくて買っただけなのかも

なんですよ。

そこで、「これではいかん」「知育偏重ではいかん」ということで、どうしたらいいのか、みんな必死になって考えた。その結果、学校現場で探し出された特効薬が、どうやら「身体」だったみたい。

聞くところによると、「知識」というのは頭のこと、頭の反対がからだだという。それで、「頭ばかり使っていないで、からだもちゃんと動かしなさい」ということになるらしい。からだをなおざりにしてきたことが、僕たちの根本的な過ちなんだった。

本当にその通りだと思う。からだは正しく使用されなければいけません。でも、どういうふうにすれば正しくなるのかっていうのは、案外難しい問題だよな。

■身体のことを見直そう

さて、僕たちはこのところ、からだのことをすっかり忘れていたのでしょうか。そのせいで、すっかりバランスを崩してしまったのでしょうか。

僕は、むしろ逆だと思う。今の時代ほど身体に関心が持たれたことはかつてなかった、と言ってもいいくらい

だと思う。僕たちは、いつの間にか「健康」や「美容」という言葉にすっかり取り囲まれてしまっている。むしろ、強迫的に迫られていると言ってもいいくらいの状態だ。「健康」と「美容」が偏差値のお化けになって、僕たちに、特に若者たちに襲いかかっている。

僕たちは、「知育」にかまけてからだのことを忘れていたわけではないのです。からだのことまでが「知育」の中に取り込まれてしまい、からだに関する「知識」の洪水の中で戸惑っているというのが本当のところだったのですね。

「美容」ということで言うと、ある人が面白いことを言っている。今まで、「男性は見る性」、「女性は見られる性」だったんだけど、最近は、女性も「見る」能力を獲得して、自分自身を「見る」ようになったって言うの。

男の視線というのは、「おっ、あの子のムネ、でっけーなあ」とか、「色っぽい目がたまりません」なんていうような、品評会的視線のことで、「ミスコン」を選ぶときの視線がその代表格。からだのそれぞれの部分をバラバラにして、モノとして見る視線のことね。

それに引きかえ、女性の場合、以前は、自分を見ると

きは「見られ」の状態だったという。「自分」が他人（特に異性）にどう見られるか、どう受け入れられるかという、人間関係上の問題として、自分に対する視線があつたというの。

ところが、最近、女性も自分のからだを「見る」ようになってきたというわけ。「人からどう見られるか」という視線、つまり、「私、かわいくみえるかしら」という「見られ」の状態が、「目と鼻はいいんだけど、口がねえ」だとか、「ウエストはいいけど、足首がちよつと……」というふうに、自分のからだを他人のからだと同様の視線で「見る」ようになってきたんだって。なんだから、わかるような気がする。

「見られ」がいいか悪いかは別として、少なくとも「見られ」には相手があつた。その場合、「視線」はコミュニケーションの手段だったんだ。ところが、自分で自分を「見る」行為には、他人の入り込む余地がない。一見、「美容」を追求する行為は、周囲との関係を求める行為に見えるけど、本当は周りの人たちはただの鏡に過ぎず、あなたとの豊かなコミュニケーションを求めているわけじゃあないよ、っていうことみたい。

科学や医学が発達して、人間の体は限りなく細分化されてしまったとはいふけれど、自分で自分のからだをどう見るかという、自分の身体感覚までが細分化されてきたというのは、ちよつとすごいことかもしれない。それは、僕たちが、様々なパーツの集合体として自分の身体を意識するようになってきた、つまり、科学的・分析的に自分の体に目を向けるようになってきたということだ。

最近では、自分の体の「どのパーツが好きで」、「どのパーツが嫌いか」を即答できる人も随分多い。そういう人は、体重や体の各サイズ、鼻筋や口の形、肌の色や体毛の濃い薄いにいたるまで、自分で自分の体を客観視し、どこをどう変えればどんなふうになるかということも、随分簡単に想像する。臓器を取り替え可能なパーツとして見ることに違和感を覚える人もほとんどいなくなった。それは、服やアクセサリや部屋のインテリアを変えるのと同じ感覚で自分の身体をとらえることができるようになったということだ。実際に、気に入らない「部分」はどんどん「改良」されてゆく。それを別に悪いと言っているわけではない。

でも、落とし穴はあるよ。僕たちが自分のからだを客

観視することの副作用は、どこまでが「自分」かという、身体の一部感の喪失ということ。服を着替えるのと同じ感覚でからだを着替えてゆくと、いつの間にか、どこまでが自分でどこからが自分ではないのかわからなくなってしまう。自分のからだと自分の装いの区別がつかなくなってしまうんだ。自分の「身体」の大きさに対して「身体感覚」が小さすぎたり大きすぎたりするという現象が生じてくる。

身近な例をあげると、「胃」が痛いのは「胃」の問題であって、「胃」に胃薬を与えれば解決する、というような感覚にもあらわれている。間違っても、恋人とのほんかの仲直りを急ぐことが先決だということにはならない。風邪をひいても、「からだや心が休養を欲しがっているのだ」とは考えない。「風邪薬をのめば治るはずだ」となってしまう。風邪は自分全体の問題ではなく、鼻やのどの粘膜と風邪の菌との問題だと思っているからだ。

昨今の健康ブームも、あるものを「食べた」、ある運動を「やったり」とすると、自分のからだのある部分が「健康」になる、という式のものが多。ここには、前述の細分化以外に、本人の個性や状態が無視、とは言わ

ないまでも、かなり軽視されているという状況が加わっている。あらゆるものが「部分」に分けられ、局部的な問題にすり替えられたうえ、どの人間も同じだよ、ということが付け加えられているのだ。トータルな、ひとりの、かけがえのない存在としての人間がそこにはいない。日本語には、「腹が立つ」だとか、「片腹痛い」だとか、「肝がすわっている」だとかいったような、からだど気持ち、性格や精神状態をつなぐような表現が豊富にあった。それは、僕たちが、頭だけではなく、からだ全体で物事を考えてきた証拠なのだと思う。

今、そういう表現がどんどん日本語から消えている。最近では、「腹が立つ」人よりも、「頭に来る」人が増えてきたのだそうだ。心は、頭の中にあると考える人も増えている。そんな中で、からだど心のあり方をもっとトータルに見直してゆこうという動きがあらこちらで見られるようになってきた。とても良いことだと思う。

■犬は悩まない

突然で恐縮だが、僕の家には牝犬が一匹いる。近所の教会でもらってきた雑種で、人なつっこく、犬なつっこ

い。その犬を見ていると、「犬は悩まないのだなあ」と思う。

いや、決して彼女が何も考えていないと言っているわけではない。飼い主の表情や、友達の犬の顔色など、実に敏感に察知して適切な行動を取る。こちらの機嫌が悪いと見て取ればしつぽを巻いて遠ざかるし、お腹をこわしたときはえさを残す。楽しさも、体調の悪さも見ればわかる。行動と感覚に不一致ということがない。つまり、「現在の自己がいつでも自己のすべて」になっている。そこには、自己に対する不信が見られない。

僕たち人間の悩みの大半は、「自分が自分でしかない」という「挫折感」に起因しているように僕には見える。自分の限界性、あるいは、他者との相違が悩みの原因。これは自分を他者と「比較」してはじめて生じる問題だ。「自分に自信が持てない」というのは、結局、「自分が正しい状態にあるとは思えない」ということで、僕たちはいつの間にか暗黙の理想像を想定してしまっている。

要するに、「犬は悩まない」というのは、「犬は比較しない」ということ。彼らは、自分の絶対性をぎゅゅりと受け止めている。かといって、自分を「特別の存在」

だと思ひ込むことによつて、存在の絶対性を手に入れているわけではない。他者の存在の絶対性もちゃんと心得ている。「あるべき理想の犬像」などという愚にもつかないもので一生を棒に振るようなこともしない。

そういうふうになると、我が家の駄犬の顔が急に神々しく見えてきたりする。「これが悟りを開いた顔か」、なんちゃって。

■「絶対存在」としての W・タ・シ

「トータルな存在としての自己を回復しましょう」ということで、あつちこつちでいろんなことが行われている。

分析的にはなく、総合的に人間をとらえよう、あるいは、科学的に明らかなことだけではなく、もつと広く目を向けよう、という方向はいいと思う。とにかく、思いつくことをいろいろやってみるしかないよね。

でも、その時に、ひとつだけ気になることがある。それぞれ場所で、からだのあり方、心のあり方の「理想像」なんかが作られたりしていないでしょうね、ということだ。パーツに細分化されてしまった自己をトータルに見直しましょうというときに、またぞろ、「理想像」

なんかを持ち出して、あれは○、これは×なんて、そんなやり方だけはやめて欲しい。偶像崇拜は、昔、誰か偉い人が禁止したことだと聞いているよ。

じゃあ、「人間をトータルに見る」って、具体的にはどうすればいいのということになる。言葉遊びをするみたいだけど、僕は、本当は、「見て」はいけないんじゃないかと思う。「見る」・「見られる」の「見る」では、僕たちは永遠に幸福になれない。

それじゃあ、「見られ」なのかというと、これも実に不安定な状態だ。「見られ」では周囲によって常に自分が揺り動かされてしまう。正解は、自分を外部的な「目」では「見ない」なのだ。自分をバラバラにしてしまわないためには、自分のことは「目」では見ず、「感じる」ことにする他ない。

考えてみれば、僕たちの感覚はあまりにも「目」に偏ってしまっている。僕たちのからだには他にもたくさん感覚が備わっているのに、それらの感覚で自分を認識することを忘れてきているのだ。

例えば、からだの「重さ」は、普段意識されることはない。「重い」と感じるのとは何か理由があるからだ。日

常的に鏡なんかを使って、自分を「見る」のはやめた方がいいんじゃないか。自然と見えてくるはずだったものが、見えなくなってしまうたり、「目」に頼るあまり、見えないものを感じることが妨げられてしまうからだ。

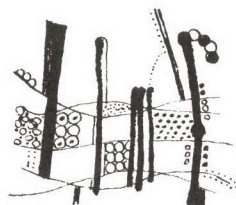
他者との関係でも同じことが言える。うちの犬などは、友達の出会う度、目も鼻も口も舌も耳も皮膚の感覚も、感覚という感覚を総動員して挨拶をする。それこそ全身を使って相手を「知り」、感動と共にからだ全体に記憶を刻みつけているのが見て取れる。

「犬と人間を一緒にするな」と叱られるかもしれない。でも、犬に『知の技法』などという本が必要なのは、彼らは「全身全霊で知りたい」ということ以外は何物も覚えないからではないだろうか。知識だけが意味もなく浮遊することがない。全身の感動を伴わない知識はハナクソなのだ。

自分のからだで感覚をひとつにしたいと思うとき、僕たちに必要なのは、誰か良いエキスパートを探すことではない。自分自身の日常を、唯一無二のかけがえのないものとして受け入れる、ささやかな勇気なのだと思う。

(みなみの・ただはる 高校家庭科教員)

ホリスティック教育は 『いのち』の教育



手塚郁恵

最近ホリスティック教育という言葉をよく耳にするようになりましたが、これはどういうものなのでしょう。いくつかの項目に分けて、考えてみたいと思います。

1 ホリスティックな見方・考え方

「ホリスティック」という言葉はギリシャ語「ホロス（全体）」を語源とし、「すべてのものがつながり合っている」「すべてのものを包み込む」「全体の中でさまざまなものが調和している」というような意味です。

つまり、ホリスティックなものの見方・考え方には、「つながり」「つり合い」「包み込み」の三つがあります。

この宇宙はひとつのまとまりを持った全体であり、その中のすべての存在はつながり合っています。私たち一人ひとり、人類、自然、宇宙すべては根源的にひとつのもの、いのちはすべてのものとのつながりの中に存在します。

すべての存在はお互いに支え合う相互依存関係にあるのですから、争い戦うのが本来の姿ではなく、違ったものが違ったままに調和し支え合うのが、生命の本来の姿です。

また、すべてのものがつながり合っているならば、存在するすべてのものは、大きなつながりの中で意味を持つており、必要なものは何もありません。また、それだけで完全であり、他の存在を必要としないものは何もないのです。ですから、自分が正しい、相手が間違っ

ていると相手を排除するのではなく、相手を活かし、その一面性、断片性を補い、全体の中でつり合いをとろうとするのです。歪みはつながりを見失うこと、つり合い、つまり調和を崩すこと、生命の一部分を排除しようとするなどから生まれてくるのです。

2 いのちへの畏敬

ホリスティック教育の根底にあるものは、このへいのちへの畏敬です。

私たちは人との深いつながりや、生きることの意味を求める存在です。一人ひとりの中に与えられているへいのちへの神秘に目覚め、そのへいのちへの畏敬を実感するとき、私たちは真の充実感とやすらぎを感じます。そしてへいのちへは全体としてひとつであり、すべての存在がつながっていることを知ります。このようなへいのちへのふれあいを失うとき、私たちは虚しさを感じ、悩み、せめてもの満足を得ようとして、代替りのものを求めます。

へいのちへという次元から見ると、すべての人は生命の神秘を秘めた、かけがえのない尊い存在なのです。

3 違いと出会い、違いを活かす

すべての人はかけがえのないユニークな存在です。一人ひとは違っているからこそ良いのです。違いがあることは豊かさであり、違いに出会うことよって、私たちは新しいことに気づきます。それぞれの違いを活かしていけばいいのです。それが個性なのです。

4 小宇宙としての人間

ともすれば、私たちは、子どもを表面的、一面的に見てしまい、「やる気のない子」「反抗的な子」「だめな子」「いい子」などというレッテルを貼り、決めつけてしまいます。しかし、人間は多面的な存在であり、関わりの中で違った姿を見せ、絶えず変わっていく存在です。子どもは身体、感情、知性、魂などを含み、深いところでへいのちへとつながっています。限りなく尊いのちなのです。

5 学ぶということ

学ぶということは、自分が変わるといことです。新しい世界に目を開かれるとき、新しいことを知るとき、

新しいことができるようになるとき、新しい自分を発見するとき、わくわくするような驚きや喜びが生まれます。眞の学びは、からだ、知性、感性、魂などのすべてで体験するところから生まれます。

6 教師の役割

今の学校や家庭では、「させる」という言葉がよく使われます。しかし、人間は他人から「させられる」存在ではなく、自分で考え、選択し、行動する存在、自分の人生は自分で創造する存在です。

ですから、教師の役割は「させる」のではなく、自分でできるように、子どものなかの可能性が現れてくるように援助することです。

そのためにはまず、教える者、教えられる者、という上下関係ではなく、共に学び合い、育ち合う関わりを作る必要があります。教育の場はまず、人間的な出会いの場でなければなりません。温かい受容的な雰囲気、深い共感と慈しみのある場、安心でき、信頼できる人間関係、間違っても許され、自分が自分であることを許される場、一人一人の良さが引き出される場―そういう場づくり、

雰囲気づくりが教師の仕事です。

7 自由のとらえなおし

管理教育の反対は自由の教育だと考えられています。しかし、自由とは何なのでしょう。何かから解放される自由もあります。束縛から、ルールから、押しつけから、干渉から、自由になるということもあります。

しかし、もっと大切なのは、「自らによる」つまり、自分の意志で、選ぶことです。どのような状況の中でも、自分の行動を選びとることができます。それはどんなに自己信頼を育ててくれるか分かりません。

もうひとつ、「自らによる」自由もあります。いのちの働きにゆだねることです。これは、いのちへの信頼とも言えるでしょう。

8 社会への適応から共同創造へ

しばしば、教育の目的は社会への適応であると考えられています。しかし、現在あるもの適応するだけでは十分ではありません。むしろ、自分から他の人たちと協力し合い、共に新しいものを創造していくことが必要です。

9 地球市民を育てる

私たちはみな、地球市民です。世界がひとつの共同体なっているいま、地球規模の相互依存関係を見ていく必要があります。また、文化的な多様性を認めるだけでなく、その中にある人類的な普遍性を見いだしていくとき、多様な文化の共存が可能になるでしょう。

10 母なる地球のすべてのいのちとつながり合う

ホリスティック教育は、エコロジカルな思考法と感性を育てます。自分はこの地球のすべての存在と相互依存関係にあること、個人の幸せは地球全体の幸せと深いところで一致すること、その中で自分の役割と責任を自覚することは、価値観や思考の枠組みの転換ともなるでしょう。

11 ホリスティック教育は絶えず変化する。

ホリスティック教育には「これがホリスティック教育だ」とする固定化されたものは何もありません。これは教育の一つの方向性を示すだけで、絶対化されるものは何もないのです。自分の意見だけが正しいとする絶対化は、

もつともホリスティックでないといえるでしょう。

ですから、ホリスティック教育には、シユクタイナー教育も、合流教育も、人間性教育も、トランスパーソナル教育も、サイコシンセシス教育も入ります。役に立つものは何でも活かしていこうとします。緩やかな広がりを持って同じ方向をめざす教育はすべて包み込みます。そして、開放的であると共に、絶えず発展し変化していくものなのです。

ホリスティック教育についてもつと知りたいたいと思われる方には、次の本をお薦めします。

* 『ホリスティック教育 いのちのつながりを求めて』
ジョン・ミラー著 吉田敦彦・中川吉晴・手塚郁恵訳
(春秋社)

* 『ホリスティック教育入門』伊藤隆二・山之内義一郎
・吉田敦彦・中川吉晴・手塚郁恵編(柏樹社)

* 『実践ホリスティック教育』(編者同右)(柏樹社)
(六月発行予定)

(てづか・いくえ 翻訳家)

シ
ネ
マ
の
魔

「どうもぼくには、あんまり真面目に生きることを望んでいないようなところが、昔からあるんです。ガンになったら、手術なんかしようとしなくて、そのまま死んでいくんじゃないかと思えますね」

（「文學界」一九九五年二月号）

大江健三郎が立花隆のインタヴューにこたえたそんなことばを読んで、ぼくはドキッとした。このごろ自分が気にかけていることとまるで同じじゃないか。ぼくは大江とちがって先頃ちゃんと手術を受けはした。が、どうも事態を真面目に考えていないところがある。癌に打ち克って生き抜こうという敢闘精神に、どこか欠けたところがある。この日ごろ、そんなふうにいるようになっていたのである。

二月二十五日、退院後はじめての診察でぼくはインターフェロンをすすめられた。手術で摘出した腎臓および周辺組織の病理検査の結果、ぼくの癌は腎臓の被膜を破ってまわりの脂肪層に浸潤していることが判明し、ステージとしてはⅢのa。リンパ節への転移はなく、肺や骨などへの遠隔転移も

映画館の暗闇でぼくは何を育てたか

武 田 秀 夫

いまのところ見られないが、なにしろ腎臓の転移は血行性のもので、五年以上経ったからと安心していると八年目、九年目に出てくる場合がある。だから私たちとしては、と長身のM医師は説明をつづけた。だから私たちとしては、あなたのような場合、〈予防〉としてインターフェロンをすすめる治療方針をとっている。ただしその際副作用としてはこれこれのものが人によって出てくる場合がある一方、その治療効果はとなると、残念ながら、まだ患者を十分に説得できるだけのものが調査によってあとづけられているとはいえない現状である。にもかかわらず、私たちがインターフェロンをすすめるのは、そのことによって腫瘍が小さくなるという効果のあらわれる場合もたしかにあるので、その可能性に期待してのことなのだが――。

M先生のそんな説明をききながら、ぼくは、「どうも迷いますねえ」とつぶやいた。もともと面倒くさがり屋のぼくのことだから、こんな場合、ふつうなら、「エイ！ 面倒だ。

とにかくお任せしますから早いとこ、まずは一本、注射を打ちまわってください」となるところなのだが、その日はどういうわけかそういう対応にはならなかった。

二週間に八本、自宅で、自分の手で筋肉注射をする。それを二クールやる。熱が出たら座薬で対処する。それ以上の副作用が肝機能障害や鬱状態となって現出し、それによってあなたの生活のアクティヴィティが阻害されるようならその時点で治療は中止する――。

そんな説明をきいていたら、なんだか億劫になってしまったのだ。

「ためしに今日一本打って行ってみますか」と言っていたM先生も私の様子を見て、「ああ、迷っているようでしたら一週間よくお考えになった上で、結果を来週聞かせてください。それで結構ですよ」と言う。ぼくは帰りの電車の中でしばらく考えた。が、すぐに心を決め、次週再び病院に出向いて「やはりやらないことにしましたので、よろしくお願いします」とM先生に告げた。すると先生は「ああ、そうですね」と答え、カルテに「――を」となげら横文字で書いてから「拒否」とはっきり書いた。ぼくはドキッとした。「億劫だなあ」という思いから発したぼくの「インターフェロンはやらぬ」という選択がそんなに強いことばで目の前のカルテに書き込まれようとは思ってしなかつたのだ。〈拒否〉だなんて、そんな。そんな大それたことをするつもりはないん

ですけれどねえ、先生――。

「それでは三か月後の六月三日に、まずはレントゲンをとりにきてください」

M先生の顔が心持ち冷たく厳しく感じられる。ぼくは突きはなされたような気持ちになった。

その日は土曜日だった。だから新宿あたりで映画を見、その後だれかを呼び出して酒を飲んでもよかつたのだが、いやや今日はこのまままっすぐに青梅に帰ろうとぼくは思った。すぐにもどれば市の体育館で仲間とバドミントンに興じられる。そうやって汗を流したあとは寿司をとってビールを飲み、コタツに入って「暗黒街の弾痕」(フリッツ・ラング)でも見よう。

ぼくは傷ついた獣が穴にこもろうとするように、すっかり退嬰的な気分になってしまった。ある種の映画はそうした気分にとらえられたぼくを慰めてくれるもつとも優しい同伴者なのである。ぼくにおいて映画は、時にそのような薬効をもつものとして働く。

ぼくはその後、手術の予後について心配してたずねてくれる人に、インターフェロンをやらない理由についてもいろいろと説明をこころみだ。曰く、インターフェロンの、あるかもしれない治療効果となかなかこわい副作用とのかねあいについて。曰く、腎臓全摘の手術を受けた上にそうした濃厚

な治療を施すことによつて自分の生体がこうむるかもしれない
いダメージについて。そしてまた、そのことによつて自己免
疫力が低下することの方がかえつて癌を勢いづかせてしま
うのではないかという危惧について、等々。

いかにも理性的に考え抜いた末にとつた判断であるかのよ
うにそうした説明をくりかえしながら、しかしぼくはそれが
表向きのことではなく、実際は、「ああ、億劫だなあ」と
いう、なんとも非理性的な、そしてなんとも敢闘精神に欠け
る気分が発したふるまいであることをよく承知していた。

ああ、億劫だなあ。そんなことをしないで助かるものは
助かるだろうし、ダメなものならどうやってもダメだろう。

いまのところ症状もないのに転移におびえて闇夜に鉄砲を打
つようなことをする必要がどこにあるか。たしかに、副作用
に苦しみなながらもインターフェロンをやつていれば病氣と積
極的にたたかっているという実感だけは持つことができる。
それを自分ごとわつた。となると、あとは何もやることが
ない。三か月おきぐらいに検診を受けて転移の兆しの有無を
チェックしつづけていく、それだけだ。不安でないことはない。
だが、それでいいのだ。ジタバタしないでじつとしてい
る。それでいいのだ。と、ぼくは、いつのころからか身にし
みついて習性となつたころのふるまいかたがこんな時に
もひよいと出て、すぐに自分を捨てにかかると。億劫だなんて
言わずにやってみればいいのに、どうせ人間、いつかは死ぬ

んだからと、〈非行動の穴ぼこ〉とでもいったものの中に頑
固に座りこんでしまふ。そして自分の身に起きてくるであろ
うことを他人事のようにながめようとする。ほとんど好奇心
と言つていい。自分自身に対する冷たい好奇心の静かなる発
動——。人にはそれが遠観しているように見えるらしい。だ
が違ふのだ。

大江は先のインタヴューでこうも言っている。

「ぼくは突然、現実から離れてしまうときがあるんです。そ
うすると、現実で起きていることが何でも平気になつてしま
うんです。変なときにそれが起きる。ちよつと危ないんです。
こういうの、なんていうんでしょうか」

——一種の離人症みたいなものですか。

「ああ、それです。離人症みたいなものが、ぼくには明らか
にありますね。(略)たとえば、いま大きい石が足の上に着
ちてきて、足がつぶされようとしているとしますね。ぼくは
足を引っこめないで、足がつぶされるところを平気で見てい
るんじゃないかと思ひます。自分でも不思議なんです。ぼ
くにはそういうところがあるんです」

——ほほう。

それにつづいて、冒頭の引用、「どうもぼくには、あんま
り真面目に生きることを望んでいないようなところが」云々
ということはがつづくのだが、ぼくには大江のへちよつと危
ない〈へそういうところ〉がよくわかるような気がする。痛

みには滅法弱いぼくのことだから、大きな石が落ちてきたらあわてて足を引っこめるにきまっているが——、たとえば、ぼくは昔酒場で飲んでいた時に、友人がやくざ風の男にからまれたことがある。その友人も優男のようであってどこかコワイところのある男だったから「 temeエは黙ってる」と平然と言いつちあわやという場面になった、その時にぼくはなんだか気持ちシーンとなつて、やおら二人の間に割つて入り、結局その喧嘩を収めてしまった、そんなこともあった。三代半ばのころだった。五つほど年が下のその友人は、(後年彼は酔つたまま深夜風呂に入つて眠りこみ、火を点けたままの湯舟で亡くなつたのだが)、酒場での一件のあと、「夕ヶダさんは喧嘩をとめるのに慣れてるんでびっくりしましたよ。妻味がありましたよ」としきりに感心していたが、しかしそれ以外の外れな誉め方だったのであって、ぼくはただ、どういうわけかその時、(エエイ、どうなつたか)と瞬間的に自分の腹が気味悪く妙な具合にすわつてしまつただけなのである。

思うのだが、ぼくにおいてこうした(現実から離れて何でも平気になつてしまふ)妙なクセは、子どものころから入り浸つた映画館で、スクリーン上に展開される偽の出来事をこソリアルな現実として感じ、暗闇の中で息をひそめてそれに見入っている自分の方はかえつて虚ろな非現実の存在として感じる、そうしたことをくりかえし体験しつづけたことに

よつて涵養されたのではなかつたか。そしてその妙なクセは、ぼくが現実にある種の危機に直面したときに、その自分をスクリーン上に映じた偽の像のように自分の外側に眺め、そうした心の操作によつて危機に瀕したぼく自身の生の核の部分こそちら側の暗闇に隔離し保存しひそかに生きのびさせようとする——。そして今、癌といふかつてない危機に直面した自分をぼくはとつきに自己劇化して対象化し、それを眺め愉しみ記述することによつて、圧倒的な死の恐怖によつて壊れてしまふかもしれないぼくの自我を守ろうとしている——。

では大江の場合はどうなのだ。人は反問するかもしれない。たしかに彼はぼくと違つて映画館の暗闇でそうした(離人症的なところ)を育てたとは思われない。ぼくが今ひそかに考えているのは、大江が内子高等学校在学中に、毎朝登校すると上級生の一団に校舎の裏手に引きずり込まれ殴打されつづけるという体験をしたことの大江における意味である。抵抗したい圧倒的な暴力を身に受けつづけている間、少年はいつか自分を守るために、殴られつづける自分をもうひとりの自分が(平気で見て)術を身につけたのではなかつたか。昨年の十二月二十六日、右の腎臓にかなりの大きさの腫瘍があると医師に宣告されたとき、ぼくは、シーンと妙に腹がすわるのを感じた。おそらくはその瞬間、アドレナリンのようにぼくの自己劇化のクセが噴出し、ぼくの心を防衛的に麻痺させたのである。

北京からの風

②

船矢佳子

北京人の

一日の

生活風景



北京の人はどんなふうに一日を過ごしているのだろうか。朝起きて夜眠ること、働くこと、一日三度のご飯を食べること。人が生きていくために必要な、万国共通の生活の営みを、同じアジアの住民である彼らがどのようなやり方で行っているか。ちょっとのぞいてみたい。

北京の標準的な夫婦は共働きで、子供は一人だ。子が一人なのは、政府のひとりっ子政策のためである。親は同居か、比較的近くに住んでいることが多い。

朝は全体的に日本よりは早い。もちろんそれぞれの職場の出勤時間によって差はあるが、道端に毎朝立つ屋台が相当早い時間からやっているところを見ると、やはり日本よりは全体的に早起きのようだ。

北京の人の出勤前の仕事は、朝御飯と昼のお弁当の用意（外食する人もいるが、お弁当持参の人が男女ともかなり多い）、子供を幼稚園や学校に送ることである。朝御飯は外であらかじめ買っておいたものが中心で、朝食のために、わざわざご飯を炊いて野菜を切って……ということは少ない。時間がないからだが、漬物とおかゆだけとか、マントウ（肉マシンの中身が入っていないようなもので、北京の人たちが米と並んで、主食として食べるもの）とゆで卵だけとか、あるいは

は中国ではどこでも主食の代わりに食べられる、ちょっとし
たおやつみたいなものが売っているので、そういったものを
買っておいで朝食べる。

また、お弁当はだいたい前の晩の残りをおかずにするのが
普通で、お弁当のためだけに早起きしておかずを作る人は稀
だ。子供は幼児なら自分たちの両親の家に預けに行くし、近
所に親が住んでいない場合は保育園に預けに行く。小学生な
ら学校まで送りに行って、やっと出勤である。

仕事がひけたあとは、子供を迎えに行って、市場に寄って
野菜や肉を買って帰途につく。子供を迎えに行くのは、両親
が代わりにする場合もかなり多い。共働きが普通なので、夫
の両親も妻の両親もこれぐらいは仕方ないと考えているよう
だ。夫の両親だから預けにくいとかそういうことはほばない。

家につくと夕食の支度が待っている。夕食は朝、昼よりは
時間をかけて作るそうだが、中国の家庭料理はもともと炒め
物が中心なので、料理としては単純だ。だいたい主食とおか
ず二、三種類を作る。夕食が終わると片づけて、明日の準備
をして、子供の勉強をみたり、テレビを見たり、ややゆっく
りしてから就寝である。寝るのも日本よりは総じて早い。

これは北京に住む人の平均的な生活風景で、日本と違うと

ころは、これが男女の普通の生活だということ。日本だと一
般的にこれは、女性の生活風景といえる。共働きがあたりま
えなので、夫が家のなかのことをするのも普通、仕事も家事
も文字どおり二人でやっている。朝の出勤前言えば、子供
に支度をさせるのが妻なら、朝ご飯とお弁当を用意するのは
夫というふうには。朝はラッシュで危ないので、幼児を抱いて
バスに乗って保育園に送り届けるのは、けっこう男性の役割
だ。夜は夜で先に帰った方が夕食を作るので、夫の退社時間
が早い夫婦は、夫が毎日夕食を作る。夕方の市場には、父親
に連れられて野菜を買って帰る子供の姿がある。

日本と大きく違う点はもうひとつある。労働時間だ。毎日
残業、残業と一日十時間も十一時間も働く職場はほとんどな
い。夕方はだいたい五時か六時には退社できるし、昼休みも
たっぷり二時間とる。比較的休みも取りやすく、親の病氣や、
妻の出産や、子供の父兄会などのために仕事を休むのは自然
なことだ。男女とも労働時間がそれほど長くないので、夫婦
で家事に携われるとも言える。生活は日本より不便で経済的
にも豊かとはいえないが、日本よりは、夫婦が共同で家庭生
活を営んでいると言えるようだ。

「どこか遠くへ行きたい。誰も僕のことを知らないところへ行きたい……死にたいなあ……きつと僕はあと十年のうちには気が狂ってしまうか、自殺してしまうんだと思う」。

友人が電話口でポツリポツリと語った。

彼の話を聞いて、彼の苦しみをわかって、彼の気持ちが痛いほどわかった。彼の苦しみは、普通の人が聞いたら、「何だ、たいしたことじゃないじゃないか」と思うようなことだろう。でも彼にとって、は本当に苦しくて、どうにも解決のつかないことであって、死にたくなるほどのことなのだと思う。その人の苦しみは本当のところ、その人にしか理解できない。彼はポロポロに傷ついて、やっとの思いで生きていた。

「死にたいけど、死ぬ勇気がない。死ぬときは眠くなる薬を打ってか

ら、死ぬる薬を点滴しようかな……」

「ほんとに自殺するときは、私に言いなよ。手伝ってやるからさ……。何も自分で点滴することなんかないじゃない。私がしてやるよ。死ぬまで見届けてやる。一人でやっちゃって、死に損なって、かえって大変なことになるかもよ」

私が言った。

「バカ。そんなことしたら、殺人になっちゃうじゃないか。自分の人生、棒に振るつもりか？」

「だって、一人で死んでいくなんで、あんまりにも悲しすぎるじゃない……。死ぬときぐらい、誰かがそばにいたほうが、寂しくなくていいよ。そのかわり、私が疑われないように、ちゃんと遺書を書いておいてね。私だって私の残りの人生、だめにしたくないからさ……」

友人は電話の向こうで苦笑いし



ているふうだった。

本当に私はその時、友人が自分一人で命を絶つくらいだったら、手伝ってあげたいと思った。たとえ、自分の人生を棒に振ったとしても、友人として、彼が一人で苦しみながら孤独のうちに死んでいくのは、かわいそうに思えた。これだけ辛く悲しい思いをしてきて、最後の最後まで孤独でいるのは、かわいそうだと思った。

友人からの電話を切って、ふと、われにかえったとき、「命を救うはずの医師が、たとえ私的感情が混じっていたとはいえ、自殺の手助けをしてやる、なんて豪語するなんて」

と、苦笑いをしながらも、ふと、Hさんという患者さんのことが私の脳裏をかすめた。

Hさんは寝たきりで、人の世話にならねば生きられない自分を嘆いて、

「死にたい。何とか早く死ぬる方法がないかしら。私つて贅沢よね。最高の治療を受けられる環境にあっても満足できないで、不満ばかり言っている。でも死にたいの」

と、いつも言っていた。

そんなHさんの繰り返す言葉を聞きながら、私はこう言ったことがある。

「そうだね。辛いよね。どんなにはたから見ても、辛い環境にあるように見えたからといって、辛いものは辛いんだから仕方ないんじゃない。

生きていたくないんだね。私が神様だったら、今すぐHさんを、自分のところに連れて行ってあげるんだけど、私は人間だからそれもできないしね……」

私はHさんを殺してあげることにはできないけれど、一緒に祈りしてあげる。Hさんに早く死が訪れますように。Hさんらしく、尊厳を持った死が迎えられますように……」

「先生、ありがとう。ちょっとびり元気が出たわ」

Hさんはようやくにっこり微笑んだ。全く不謹慎な医者である。患者の死を願うなんて……。でも、まあ、そんな医者が世の中に一人くらいいたっていいか、と私は思っている。

ところで幸いにして、友人の自殺の噂はまだ聞いていない。「自殺を手伝ってくれ」という電話ももらっていない。よかった、よかった。

女と男の家庭科新時代

家庭科

遊(ゆ) う わ 惑(わ) く

クラスの空気が つながっていく

東京都立稲城高等学校
蔵本佳子
前澤やよい

■ 発表授業にチャレンジ

二年生の三学期。一月に修学旅行も入り、短い時間数の家庭科をどうしめくくっていいか……。年間予定では、住生活と環境をテーマに、生活を社会的な広がりでもらえて終わるつもりだった。しかし、調理実習は大好きで生き生きするのに、授業になると眠ってしまう生徒たちを前にして、また講義形式で進むのは……。

そこで、思いきって発表形式で、最後に、生徒たちに苦しんで(?) もらうことにした。

一橋出版の『カレント家庭科資料集』からテーマを選び、その中身について理解した上で自分の考えを述べていく。発表時間五分以内という簡単なものだ。一人もし

くは、多くとも二人のグループを設定した。説得力を持った発表方法を重視すること、表現する能力も評価の対象になることをあらかじめ伝える。

グループ分けをして、『カレント家庭科資料集』のコピーを渡し、B4一枚の用紙に発表内容をまとめるよう伝える。すぐに旅行がせまっていたので、直前に最後の調理実習、「太巻き寿司といなり寿司・お吸い物」を入れた。

二年生は全体的に明るくなごやかなムードの学年で、実習をしても、一人一人海苔巻きに挑戦しながら、ワイワイ、キャーキャーと実に楽しげな様子が伝わってくる。海苔巻きに個性が出て、この実習は関係づくり

は、とても良い。余談だが、その前の実習にも、できるだけその人の持味が出てくるよう、「皮から作るギョーザ」「手打ちうどんすき」といった献立を立てた。

■ いざ、発表

さて、いざ発表の日がせまったのだが、かんじんのレポートがさっぱり出てこない。あせって何度も張り紙をしたり、教室で呼びかけたり、怒ったり……。ようやく追いつめて、何とかその日を迎えた。

しかし、慣れない発表に緊張の色は隠せず、「先生、これを読むだけでいいか？」などと助けを求めてくる。思ったように表現してくれてかまわないと伝えたのだが、声小さく、何だかよく分からないものも多い。

調べるにしても、図書室の資料を使う位にとどまったように、発表内容のレポートといっても、『カレント家庭科資料集』のコピーを抜き書きして、まとめにしてみよう生徒が多かった。それでも、友だちの発表のポイントを短くまとめていくという次なるレポートを課したせいで、何とか聞いていたようだ。

発表を聞きながら、教室の空気というか、生徒の関心

がどこに向かっていくのかを感じる事ができた。これは自分が話していると忘れがちな事だが、内容を聞くというより、友だちの表情、声、姿などを感じながらレポートを作成しているというムードだ。

生徒たちの集中する様子が見られたのは、次のような面々が発表したときである。

(G組の場合)

禁欲的なムードのあるO君。子どもの文学に描かれたジェンダーについて発表。日頃から問題意識のある生徒でクラスになじめないところも出るが、この日は、決してひかないぞ、という姿勢が伝わってきた。時間をオーバーしながら、分かりやすく考えを伝えた。

(A組の場合)

YさんとI君のカップルで登場。学校内のゴミ問題について……のだが、はにかんでなかなか始まらず、ますます期待を寄せるクラスメートたち。皆でニヤニヤ。私まで照れたら「やだあー。先生まで赤くならないでよー」。

「男の自立」について述べたM君。両親が共働きで、家事の分担をめぐって長年の不満が爆発し、目下、対立中

とか。その姿を見ていて、理屈は分るが、小さい頃から父を真似て育った自分は、家事能力がないし男にしかできない仕事もあるから仕方ない……と。

実は、前日何を発表してよいか分からず、彼は私のところに来てしばらく話しているが、その時、私と激論（？）をかわしたあと、「先生、この話、なかなかけりがつかないし、多分クラスの奴らもいろいろ言うと思うよ」。

自分の正直な気持ちを出したところがクラスメートに評価されていたが、残念ながら、質問、意見は出なかった。

Y君は「カードローン」について一度目の発表ではあきたらず、もう一度という要望があったので、リターンマッチを許した唯一のケース。いささか偏屈な理系男の彼は、私の、「思い」をたっぶりもりこんだ（？）。「性」や胎児診断についての授業には徹底して素っ気ない意見を書いていた生徒だ。レポートに『カレント家庭科資料集』など「クソゲー以下」（つまらないゲームよりもつとつまらないという意味らしい）と書き、参考資料に「知り合いと父の話」と書き、物おじしない話術でクラ

ス中をすっかり引き込んだ。

内容は「カード破産の手続き」「夜逃げ屋のプロの口」「不当な借金取り立てを訴える方法」等、その道の裏話を黒板まで使って大胆に話す。お父さんは不動産ブローカーとのこと。私も興味がつきず質問していたら、あとで集めたレポートに「激論」と書かれていた。

■ 授業を終えて

正直言って、笑いあり静けさありで、あっという間の二時限だが、内容についてどこまで受けとめられたかは、いいかげんなものだ。

実は、学年全体で発表授業に取り組むのは、これが初めてで、それまで生徒たちのレポートの取り組み方、そして表現力を考えると、いつも足踏みをしていた。現実には、私たちは成績を発表とレポートでつけていくのだから、何かと提出遅れのたび、手抜きレポートを出すたびに、成績で嚇して無理にやらせてしまう。その駆け引きによつては、この発表授業は単なる苦役というムードの中でやりすごされるか、最悪の場合は何人もやっついていないということ、予定が狂うこともありうる。

私は何度も読んで感じて、書いて整理していくという作業が好きだ。だから、どうしても文章表現を重視して授業を進めてしまう悪い癖があるが、今回はいやというほど、レポートとして優秀なことで、その人間が感じて表現した結果とがこんなにも隔たりがあることを知った。むしろよくまとまったレポートを書く能力のある生徒のほうが、発表となると魅力がなくなつて、早口で読み上げ、それこそ、やり過ごしてしまう。

後で、次のような感想を書いた男子がいた。本当に授業とはきれいごとだけですまされない。ドロドロした感情の渦巻くものなのだと思う。

(男子の感想)

いつのまにか家庭科の授業がレポートの発表になつていたとは驚いた。何でこんなことをするのだろう。不思議でしようがない。やつて何の得になるのだろうかなど、ずうつと頭の中で思つていた。でもいくら自分がグチつたところでどうなるわけでもない。おとなしく言われるままにした。自分の発表は中間の方だったので、初めの方に発表の人のを見て観察していた。聞いていると「何

だこいつ、何いつてんだ。バカみてー」とか、思つて聞いていた。ただ本を写している奴とか、ただきれいな事をならべている奴とか、いい子ぶつてる奴とか……。もう見ていてイライラしてきた。もつと、ただ言いたいことだけすばつと言つて、それでその内容について言えばいいのに、だから文字ばかりならべやがつて。発表した奴の中にはそういう理想の発表をしてくれた人もいて、その人の発表はやはり聞いていて気持ち良かった。

この作文を書くときに何人かのレポートを配つてくれた。はつきり言つて出だしから自分はむかついていた。きれいごとばかりくつちやべつている奴の文だったからだ。気分が悪くなつた。この話はちゃんと家族がいて、家もちゃんとあつて普通の人たちが思うことである。家族がない人はどうやつて「その、コミニケーション」とかいうやつをとればいいんだ。家に帰つて心が温まるような家がいい(?)ふざけるな。自分は家に帰つて話す人もなければ何もなし。そういう人はどうするのだ。こいつの書いていることは、自分が人並みに幸せであつて、さらにその上の幸せを求めて意見をたれていただけだ。自分みたいな生き方をしていれば、きつとこんなことは

書かないだろう。というか書けないと思う。そういうことを経験したことがないから……。まあ、言いたいことを書いてしまったけど、結局そういうことを言える人たちがうらやましいんだろう。(中略) けっこう言いたいことを書いてすつきりしている。まあ、この家庭科の時間は役に立っているんだろう。無駄な時間ではなかったと思う。長々と訳のわからないことを書いてしまったけど、最後まで読んでくれた人、ドーも。

発表させてみて、私はそのおもしろさを再び感じている。生徒たちは知的に理論的に整理していくおもしろさよりも、人間そのものの発する力に何かを感じている。より具体的な体験談や、その人の感じ方を楽しむことに重点を置いて、私たち教師もそれを一緒に楽しむほうがこの時間が生きてくるように思った。

(蔵本 佳子)

B組はちよつと「ガキ」な男子と、なかなかしつかりした女子が揃っていて、調理実習では男女のチームワークがよく、雰囲気の良いクラスです。レポート発表では、

クラス一体となって反応する場面が何度かあり、リラックした楽しい時間となりました。

この日は発表二週目で、生徒も少し慣れてきた頃。中盤にさしかかり、O君の順番。彼は綿密かつ、まじめな男。クラスでただ一人、模造紙(二枚つなげて)を持参。黒板に貼り始めると、「うおーおー」「もぉ、AA決定だー!!」とクラス一同、発表前から尊敬のまなざし。彼は、悪徳商法について実に詳しく説明してくれました。

「すごいな。やよいちゃん(私)よりきれいな字だしよぉ」しきりに感心している生徒たち。彼も「はい。皆さんもう写しましたかー」「はい」。ぱちぱちぱちと自然に皆が拍手。彼はとても満足そうな顔でした。

そして、いよいよトリの登場。マン研少女のNさんのレポートは「童話の中の男の子と女の子の描かれ方について」。内容は、男の子は力強く、たくましくあれ、女の子は、心優しく美しくという思いが、童話には込められているということ。

発表が終わり、質問タイム。お調子者のT君の「セーラーMoonとドラゴンボールについて説明してください」に、どつと笑いが起こりました。彼女はストーリー

について説明。こんどはA君が「セーラームーンの青い髪の人って何ていうの?」「えーと、水野あみ」「ふーん、一応メモしておこうっ」とT君、独り言。「へっ?!」と、思わず私は目が点に。しかし、あとで回収した感想メモを見ていたら、同じような反応の男子が五人もいたのには……。

授業中、うるさくてよく怒られているT君、M君、K君が、ちようどいいところで発表者に「合の手」(チャチャを入れるとも言うけど)を入れるので、発表が全体に盛り上がってしまいました。他の生徒も窓際に座っている彼らの方を向いたり、発表者の戸惑った表情やキラクターを大いに楽しんでたようです。いつもは家庭科室の前で大声でハナ歌を歌ったり、ワルサをしている彼らだけど、この日はいい味出してくれました。(ちよつとマル)。

最初は、こちらが期待するようなレポートが出ず「大丈夫かなあ」と心配していました。しかし、始まってみると意外に真剣で緊張の面持ち。どきどきしている生徒の顔もまたかわいもの。たまには生徒が自分で動いて考え、レポートを仕上げることは、生徒が受け身でいる

よりも、はるかに心に残るものや得るものがたくさんあるように思います。そして、さらにただレポートを出すだけでなく、発表することで自分に自信をつけたり、友人の存在を確認することも、大切な意味があると感じました。

例えば、Nさんはあまりクラスの友達と交流を持つタイプではないし、クラスメートもただ、彼女がアニメ好きだと知っているくらい。それが今回の、セーラームーン・ハプニングで、お互いに「電流」が流れたような気がしました。そこには、「自分と違う考え方や友だち」を理解しよう、話を聞いてみようという積極性が生まれ、クラスの空気がつながっていくような感じがありました。

今回のレポート発表で家庭科としての意義だけでなく、クラスのよい雰囲気や共感を生み出すことができたことはとてもよかったです。自分以外の「ひと」を感じるような、そんな暖かいつながりを持つような家庭科を創っていくことも楽しい、と感じさせてくれた生徒たちのレポート発表でした。

こんな私ですが、あなたの授業見せてもらえませんか？……

松本 のり子

私、女、45歳、一人暮らし。夫あり。別居して3年。夫に離婚届けを送ってから3ヶ月。息子は去年大学の夜間に入学と同時に一人暮らし。法的な親権者は夫だが実質的に扶養しているのは私。そういう私の職業は……。定職がない。今は経理マンとして十分な収入があるが去年は失業してた。2～3ヶ月後はどうなるかわからない。こんな今の状況、私としてはとても気に入っている。

こんな私ですが、いえ、こんな私だから、ちょっとやってみたいことがあるんです。

「生きざま」を題材にしている家庭科の授業を見せてもらいたい。教師が何を伝えたかったのか、私は何を感じるか、生徒はどう感じているのかまとめて、「ヘンなおばさんの、ちょっと見せて～、あなたの授業」なんてタイトルで「We」に載せてもらえないかなあと考えているのです。（交渉の結果、OKができました）

学校では一応「自由」とか「個性」を尊重しなきゃならないって教えてるでしょ。でも、知識として入ってくる自由や個性尊重の世界って美しいんですよ。正々堂々というイメージで、誰からも認められる自由であり、個性って気がするんです。だけど、例えば私、自由や個性を発揮した結果の今の私。この私の存在って、学校（おとな）から「自由」とか「個性」を教わった10代の若者達にどれだけ受け入れられると思います？ いくら本人が「楽しくやってるよー」と言っても信じてくれないんじゃないかと思うんです。他人から好かれるためじゃなくて、自分を好きになるために、好きな自分でい続けるために主張（私の場合、もっぱら行動）することが「個性」であり、「自由」のはずなのに、他人から認めてもらわなきゃならない「個性」とか「自由」なんてクソクラエーですよ。

こんなこと言い始めたら止まらなくなるので、本題に戻します。

私に家庭科の授業を見せてくれる人、声かけてください。どうせ気楽な独り身、仕事の都合がつけば（月の半ばが比較的時間が取れます）旅行気分でも何処へでも出かけます。

安心して頂くために、一言つけ加えるならば、私は「家庭科」というものに好意をもっているものです。

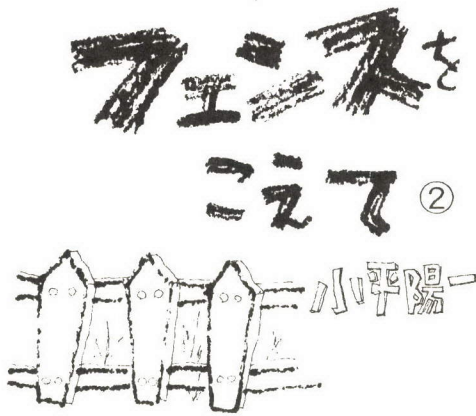
連絡先 〒222 横浜市港北区鳥山町734 泉屋第3ビル401

TEL&FAX 045-471-0162

「どうして家庭科を？」「家庭科って、料理・裁縫なの？」。この一年、この質問をたくさんいただいた。そして、そのたびに返答に戸惑った。その人に、どこまで話せばいいのだろうか。で、これが度重なるうちに、自分のなかにメニューができてしまったよ。

前菜：「科学は飽きたのさ、だって科学って単純でしょ」。〃はぐらかし〃ってやつかな？ 専門家が聞いたら怒るね。でもまあ、そう目くじらを立てないで、私だって科学信奉者だったんだから。で、それをちよつと改めたわけ。科学を絶対だと思わなくなったということ。科学は、対象にある方向からスポットを当てた実証・論理体系。その方法や正しさを疑うわけではないけれど、それがすべてではないと思った。家庭科は、いろいろな方向からアプローチする教科、それが魅力的に見えた。

総合的で感覚的、対象に肉感とまろみがついて、自分になかった世界が開けるような気がした。キリでくりくりりと穴を開けるより、手で触れて撫でま



わす。そのほうが私にゃ合っている。主菜：「家庭科は人の生き方を考えさせる」。家庭科には、女の教科とか、料理・裁縫とか、いつもそんな発想が

付きまとう。でも、もう時代は変わった。これからは、経済効率や科学万能の時代じゃなくて、豊かきや人間性や共生の質が問われる時代。役割や、性別規範で生きるんじゃなくて、個の生き方が問われてくる。その生き方や豊かさを考えるのが家庭科だと思った。こういうの、他の教科にないもんね。

副菜：「生活科学としての家庭科に興味があった」。家庭科に科学性を取り入れる。最初はたしかにそう思った。でも後で反省した。「科学」がつくとそれが一人歩きして、人間がどこかにいつてしまう。何だか専門っぽくなって、視野が狭くなる。大学で学んでつくづくそう思った。「科学」の一言に相手を納得させてしまう魔力がひそんでいる。時と場合によって、フルコースか前菜のみかを振り分ける。デザートもあるのです。

☆☆ 先月号は各地から寄せられた印刷物や、電話で聞いたことの中から

① 共学必修一年目の高校について、その条件整備の進展具合

② 特色ある学校作りや学校の統廃合の波は、今の学校の問題状況をよくしていくのか、あるいは否か。家庭科のこれからにも絡んで、放つておけない!!

③ こんな研修でこんな人の話がよかった。こんな授業が出来た。 e t c

を、のせました。簡単にしか紹介できないので、詳しく知りたい人への糸口は何らかの形で入れました。今月号は、「これ使えそう、これおもしろいかもコーナー」を入れてみました。多くの方からのご連絡を待っています。 ☆☆

私立男子高校の様子

★東京発 (by 近江)

法政大学第一中等学校(男子校)では、「家庭科もしくはそれに変わる科目設置検討委員会」を九四年一月に設置し、九五年度より「生活文化科」を

● ● ● 共学家庭科情報

置き、「生活一般」の教科書を使用し、新たに迎えた家庭科教員が教えることに。

委員会の推進者は生物科教員三宅進さん。委員会の考えた内容の一例は、

序章 人間生活の特徴

第一節 自然的存在としてのヒト

第二節 社会的存在としての人間

第三節 身の回りを見直してみよう

第一章 衣・食・住の文化

第二章 いろいろな人と生きる

第三章 社会のしくみの中で生きる

第四章 自然界の一員として生きる

(「家庭科の男女共修をすすめる会」学習交流会にて 95/4/8)

中学校の様子

★埼玉発 (by 礪部)

大宮市内二三中学校対象の「履修領域の調査結果」(官制研)によると、一年生は全ての学校で木材加

工(35hr)家庭生活(35hr)、二年生で九四年度は二二校が木材加工(35hr)食物(35hr)、一校が電気と金属加工(35hr)食物(35hr)、九五年度は全ての学校で食物(35hr)、電気(35hr)一六校、電気と情報基礎(35hr)四校、電気と金属加工(35hr)と栽培と情報基礎(35hr)が各一校、検討中が一校。三年生では週三時間(105hr)の学校が二〇校、週二・五時間が二校、週一時間が一校。領域で多いのが情報基礎ついで被服と保育。授業形態については一・二年生は全ての学校が男女共学なのに三年生では別学が一校あった。

★広島発（by 香川）

*これまで一・二・三年の週時間がそれぞれ二・二・三時間でやっていたが、二・二・二とし選択教科を増やす動きになってきた。学校週五日制にあわせてのカリキュラム大幅見直しと相まって技術・家庭科そのものが大きく問い直され始めている。

△これは使えそう・これおもしろいかもコーナー▽

▼ スモーカー「冷燻棒」―「手づくり道具で燻製自由自在」（農文協）の著者鈴木雅巳さん開発の燻

知りたい・知らせたい

製キット。冷燻用チップ、フック、燻製塔型紙のセット。これに段ボール紙、鋏、アルミホイール、ガムテープ、燻製したい食品があればどこでもできる。
（問い合わせ先 アイ・コーポレーション TEL 03-5485-5212 FAX 03-3486-9040）

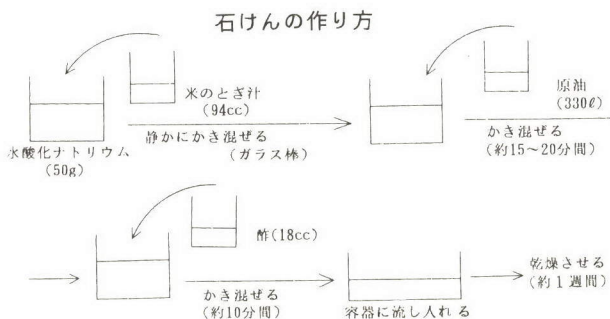
▼「家庭科で自分が変わる、世界が変わる……家庭科をおもしろくする本」グローバル・アプローチ500のアクティビティ―生徒がアクティブに関わることを模索している人へのヒントになりそう。アクティビティカードや写真、地図、討論のための資料などのキットが入ったセットで六千円。家庭科をおもしろくするワークショップの出版（模擬授業かな？）も可。
（問い合わせ先 グローバル・エデュケーションセンター 担当米山 TEL&FAX 03-3976-0179）

おわびと訂正

四月号の本欄の記事に誤りがありましたので、おわびして訂正いたします。三八頁下段、二一行目、「日本女子大通信課程で免許取得、府立高校の社会科の教員」を「神戸大学で免許取得の後、家庭科の講師」にご訂正ください。

よいでしょう。①スポンジに石けんをつけて洗う ②食器を紙などでふいた後、スポンジに石けんをつけて洗う ③紙でふきとった後、石けんを使わず、和紡ふきんで水洗いする。これ以外に、石けんを合成洗剤に変えてみる等、いろいろ条件を変えて実験してみるとおもしろいのでは？ 洗い桶の水をビーカーにとり、水の濁り具合を比較してもいいし、パケットテスト〈化学的酸素消費量・COD〉も、簡単で、短時間に測定でき、洗い方によって、水の汚染の程度にどれぐらいの差がでるのかよくわかりました。私たちは、鶏のからあげと野菜サラダ、ごはんのみそ汁の献立で、一人分の食器を1リットルの水で洗い、COD値を観測。
①100mg/l ②50mg/l ③20mg/l という結果でした。

この実験によって、水をできるだけ汚さないようにするためにはどうすればよいのか考え、これからの調理実習で実行し、家庭でも具体的に行動するきっかけになればいいなと思います。もちろん、水問題だけでなく、ゴミを分別して、それぞれの重量を測ることもできるし、生ゴミはコンポスターを使って堆肥をつくり、これで野菜を作ったら、と夢はふくらみます。



それから、廃油から固形石けんをつくってみました。プリン石けんより、手軽で安全に作る事ができたので、これもぜひお試しください。

廃油：油の中の石けんになる部分（脂肪酸）が分離してアルカリと反応しやすくなるので古い油の方がよい

酢：水酸化ナトリウムの余分なアルカリを中和する

固める容器：牛乳パック、卵のパックなどを利用するとよい

水酸化ナトリウムの取扱に注意する。（発熱、ガス発生のため換気等）

*『新しい開発教育のすすめ』古今書院 水をテーマにした実験あり

*『地球を汚さない 100の洗い方と自家製石けん』自然食通信編集部編 自然食通信

*パケットテスト 共立理化学研究所 TEL03-3721-9207



家庭科玉手箱 …… 浅井由利子 小林 由佳

私たちの生活に欠かせない水。蛇口をひねればいくらでも水が使えるように思っていたのですが、去年の夏の水不足、そして、阪神大震災。水の大切さをあらためて考えさせられました。

家庭科の授業の中でいちばん水を使うのは調理実習の時。生徒がもっとも強い関心を持ち、楽しみにしている調理実習。でも、ただ作って食べて、「ああ、おいしかった」ではもったいないと思って、家庭科の先生としては、あれこれ実習のねらいを考え……ひらめきました！

まず、初めての調理実習、どんな料理を作りますか？ できれば、お皿に油がこったり、マヨネーズたっぷりのサラダなんかもいいかな。今回は、後片付けにじゅうぶん時間をかけたいので簡単な料理にしておいてください。さて、後片付け。スポンジに洗剤をつけて洗い、水道の水を流しながらすすぎ、その時の排水を洗い桶にためておく。いつも何気なくやっている食器洗い。この時に使われている水の量やどれぐらい水を汚しているかを調べてみようというわけです。

実際に、一人分の食器を洗ってみると、ケチケチ使ったつもりでも、測ってみたら、約1リットル。いつもの調子だったら、いったい何リットルの水を流してしまっていることやら。皆さんも、一度、測ってみて下さい。それから、ついでに、毎日どれぐらいの水を使っているのか、水道料金をチェックしてみませんか。ある資料によると、1人1日あたり水道使用量は、183 リットルだそうです。

次に水の汚れについてですが、たとえば、各グループで食器洗い用の水5リットルと決めて、洗いおけに5リットルのところに線を入れておき、洗い方によって、水の汚れがどのようにちがうか、比較してみると

複眼で
みる

共鳴する
身体



東洋医学や気功に興味津々なのに、なぜかひとつところに定着できない私。一色に染めあげられる空気に耐えられないのだと思う。川崎の近くで「気響会」を主宰する片山洋次郎さんのところは、そんな私が、何の圧迫感も感じずにふんわり居られる貴重な場所だ。

片山洋次郎さん

(聞き手/まとめ 稲邑恭子)

かたやま・ようじろう 1950年川崎市生まれ。東京大学教養学部中退。以後、気の世界に関心を持ち、現在、川崎市幸区で気響会(整体道場)を主宰。「身体による身体によるカウンセリング」という「气的整体」を日々実践しながら、高度システム社会における独自の「気学」を追求している。著書に『氣と身体』『氣ウォッチング』(日本エディタースクール出版部)。

イン

タビュ一

*野口整体でからだを読む

稲邑 何がきっかけで「氣」の治療のお仕事を始められたのでしょうか。

片山 腰痛で整体の治療に通っていたとき、その整体師の方がやることを見て自分でもやってみたらわりに簡単にできてしまつて、そのうち人に頼まれるようになって、というのがきっかけです。父親がひどい糖尿病で、いろんな民間療法をやつていて、その関連で、玄米菜食とか食養には以前から関心がありました。整体の野口晴哉さんの本は読んだことはあつても、わからないことがいっぱいあつたんです。それが、実際に自分が「整体」をやりに始めてまた読んだら、読み返す度に違う発見がある。ただ、独特の言葉遣いだし、オリジナリティがあります。てわかりにくいところがありますね。

稲邑 私、野口さんの本は、『体癖』（全生社 全二巻）など、独創的でとても面白いと思うけど、女の人の見方など、抵抗を感じるころもあるんですが。

片山 確かにそのような、価値観に制約されたところがありますね。体癖の見方なんか男と女の分けかたが厳しい。時代的な背景からくる制約がかなりある。

稲邑 片山さんは基本的には野口さんの見方を現代的にアレンジして使つていらつしやるのですか？

片山 野口さんとは見方が違うところもありますね。同じことでも、「治療者」と「患者」の組み合わせでやりかたも見方も違うし、また違つていいと思うんです。これは漢方なんかもそうですね。

稲邑 正解は一つではないつてことですか？

片山 観る者との組合わせによつて正解が違つてことなんです。観る者と観られる人のそれぞれの関係のなかで、一貫性があればいい。

稲邑 相性が悪いこともありますよね？

片山 ええ、たまには。と言うか、相性の悪い人は来なくなるし、それ以前に選択が働いて来ないですね。一度電話を掛けてきて声だけ聞いて止めてしまう人とかありますからね。でも、それでいいんです。

僕のところに来るのは偶数体癖の人が圧倒的に多いです。過敏な体質の人も多い。あとは、執着傾向と、過敏傾向が両方あつて往復が激しい人とか。バランスが崩れているときのほうが「氣」的には反応しやすいんです。過敏な体質だからバランスが崩れるのだ、崩れているの

が普通だと分かれば本人は楽になるのですが。かちつとした価値観を持つて生きている執着型の人からは過敏な人の状態は理解できないですからね。

稲邑 私は四年前、片山さんの『氣と身体』（日本エディタースクール出版部）を読んで、とても気が楽になったんです。世の中では揺るぎない価値観を持つて能動的に生きる人が評価されているけど、片山さんはそれとは逆の偶数体癖と過敏体質を、時代の先取り傾向として積極的に評価していらつしやるでしょう。

片山 野口さんの本では全体に奇数体癖を中心に書かれていて、偶数体癖が疎外されています。偶数体癖のイメージはあまり良くない。

稲邑 私は野口さんご自身がカリスマ性の強い能動的なタイプの人だから、周りの状況に触発されて発散する受動的な偶数体癖に冷淡なのかと思つていたんですが。

片山 時代の傾向もあるし、野口さんの好みもあるし、ある種、それはやり残されてしまった部分ですよ。偶数傾向の人は煮詰まり易いので、突然爆発する。非日常の場では元気になるが、日常生活では発散の場がないんですね。それをいちばん素直に生かせるような方法が見

つかれば楽になるのだけ。エネルギーの出方を見つけれないんですね。今の時代は選択肢はたくさんあるように見えるけど選べなくておかしくなる。それに若いときほど、自分のできないことに挑戦したくなったり自分を完璧にしたいという欲求が強いので、自分の欠点を克服しようと思つたり、自分の本来の資質に逆らいたくありませんから。

稲邑 でも、若いときだけじゃなくて、それを延々と引きずつて苦しんでいる人が多いですよ。そういうときに体癖の考え方つて、努力しても無駄だとあきらめさせて楽にしてくれると思うのですが。私なんか整理整頓が苦手なので、野口さんが三種傾向の人を指して言った「机の中も、ハンドバッグの中もグシャグシャ」を読んだ、「あ、私は、これに違いない、じゃあ、しかたないんだ」と、すごく気が楽になった覚えがあるんです。でも、先日、片山さんに三種混じりの十種ですと言われて、あら、違つてたのねと（笑）。

片山 十種も三種同様、整理整頓が出来ないんです（笑）。自分自身を見るとときもそうですが、体癖を手がかりに人を見ると、見ている自分が楽になりますね。子どものこ

上型型 = 頭腦型

左右型 = 消化器型

前後型 = 呼吸器型

1 種	2 種	3 種	4 種	5 種	6 種
型 首が太く長い(体は全体的に細長い印象)	型 脳	型 丸みのある体型	型 直線的な体型	型 肩発達、逆三角形	型 呼吸器
エネルギー活動の中心・発散様式	頭 甲エネルギーによる 早急/思い込み、發暗 尔性高い	消化器 丸みのある体型 育べることによつて発 散/感情的なエネルギー に集約	消化器 直線的な体型 瘦れると食欲落ちる/ 下痢でエネルギーを /感情が内向しやすい	呼吸器 運動、行動によつて発 散する	呼吸器 運動、行動によつて発 散する
性格的特徴 と氣質	頭腦 思想的/行動より大義 名分を重視する/殘酷的 ・スタイル/既生活は 長い	消化器 料理は好きだが腸嫌 悪/好き嫌いが判然 と異なる/社交的/早急 に突いて来る/善悪の区 別なし(=清濁合わせ のむ)	消化器 周りの雰囲気や気分が 左右される(=好きな 環境におかれると発散 /感情的な面に影響す る)	呼吸器 行動しながら考える/ 合理的発散/あきらめ 早い/賑やかな場所好 む/仕じ好き/新しいも の好き/スポーツマン タイプ/固りの雰囲気 を明るくする	呼吸器 瘦れると呼吸弱くなる /賑やかな場所好まれる /熱つまりやすい/発作 的行動(場合によっては 英雄氣的行動)/新鮮 な環境を得ると元気

総体型 = 泌尿器型

開閉型 = 骨盤型

過敏型 (11種)

7 種	8 種	9 種	10 種
型 四肢たくましく筋肉発達	型 泌尿器	型 竹盤小さく下半身細い	型 竹盤扁平、出所または 老化で太りやすい
エネルギー活動の中心・発散様式	泌尿器 競争的発散。湿度高いと発散しにくい	生殖器官 一つのことによつて 中しきることによって 発散する	生殖器官 人の注目集まる場所で 発散する
性格的特徴 と氣質	泌尿器 競争的緊張状態で元気 /勝ち気、勝負を好み、 たくましい/力強き/たや り過ぎ/短気/反抗的 行動/ハツタリ行動	生殖器官 堅果 狭い /完全主義 /偏見強い /強固、執着、記憶 力強い/外見より内面 ・氣質を重視/やりすぎ やすい/ナポレオン型 睡眠	生殖器官 家の中より外で母性的 場所を好み/世話役的な 特性発散 /余分なことを恐れる タイプ/集中/聞き上 手/菜天的/世話好き /宴會の花/教員 /スター的氣質

注 以上に解説した著者の体質に対する見方は、野口晴哉氏のオリジ
ナルと若干のズレがある。詳しくは野口氏の著作「体質」Ⅰ・Ⅱ(全
生社)、体質から見た人間関係論「病人と看護人」、「嫁と姑」
上・下(同上)を参照されたい。
(「骨盤と身体」片山洋次郎 日本エディタースター出版部 より)

過敏型はエネルギー傾向の変化が激しく一定しない。今日、注目
すべき傾向なので少し詳しく特徴を示しておく。

- ・関節柔らかい(とくに手首を見ると分りやすい)。
- ・体の動きに重みがない。存在感も軽い。
- ・透明感がある。エネルギーは自然に(無為に)発散。
- ・顔の表情、体のバランス変化しやすい。不安定。
- ・努力できない。執着心・欲なし。
- ・価値感なし。両性具有的。感受性鋭く、直感的。
- ・何でも待っていると手に入る(努力すると手に入らない)。
- ・周りの人の緊張を感得る。若く(幼く)見える。
- ・年寄りと幼児に好まれる。
- ・免疫反応過敏(アレルギー一触即発)。

発散前夜の=事件・イ
ベントの前に興奮しやすい。予知能力あり。方向音痴。
・氣の流れスピード速い。共鳴的氣質。浄化能力あり(自他を問
わす)。
・潜在意識領域と表層意識領域の境界があいまい(交流しやす)い。

過敏型 = 無機型 (12種)
体の反応鈍い。症状が表われにくい。病気になるに
くいが、表面化する大病になる。

となんかも余裕を持って待っていられますね。

稲邑 子どもでも、夫婦でも、同じ人間だからこうであるはずだ、こうあつてほしいとか思い込んで相手に要求すると、お互いにとてもたいへんでしよう。それがある種のあきらめがついて楽になる。

片山 逆に、いったんあきらめてしまえば、たとえ相性が悪くても一緒にやつていけるかもしれませんよ。生まれ持つている、人格のもとになっているものは認めるしかないというふうに見える、自分も他人のことも認められる。世の中、どうしても役割論が先行してしまう。

母親はこうあるべきだとか、父親はこうあるべきだとかでも、そう思つて無理に「正しい家族」を演じようとする、お互い緊張感が高まり、家族という場が息苦しい場になるんですね。

*家族は無能な人を中心に成り立つ場

稲邑 『気ウオツチング』（日本エディタースクール出版部）のなかで、「有能」な人を中心に成り立つているのが社会で、「無能」な人を中心に成り立っているのが家族、家族が共鳴的な場でいられるには、役に立たない人が中心にいる必要があると書いていらつしやいます。

片山 そういう共鳴の核になれる人がバランスをとるために必要なですね。社会的に「自立」して「有能」だと思われている人も、人から評価してもらつたりすることで他人に精神的に依存しているわけで、気的に見れば自立しているとは言い難い。むしろ無能で欲の無い人のほうが周りの人の「気」的なバランスをとつているということなんです。

稲邑 片山さんのご家族はどんな家族だったのですか？
片山 僕も母親が十種傾向があつたんです。十種傾向の人は母性的な場の支配力が強くて、しかも「母親」することが苦手ですから、子どもは大変です。

稲邑 私はさつさと子どもをほつたらかしにしちやつたのです。

片山 ええ、そういう人は早くあきらめて子どもを手放したほうがいいんです。十種の人が無理して主婦や母親やると悲惨なものがありますよね。僕はまだ、七人兄弟で、兄弟が多かつたから救われています。父親が亡くなる前までは母親の目は父親にばかりに行つていましたから、それで助かつたようなところもあります。父親と母親がバトル状態で。

稲邑 夫婦の間で発散してくれたら、子どもに向かつて来なくていいのでは？

片山 いや、でも、家族の「場」は相当ハイパーなものになりますからね。そういう意味では子どもは鍛えられるか潰されるかどっちかという感じですね。

*自立と間合い

稲邑 いまはなんだか自立しなければというのが強迫になっっているような気がして。日本と欧米とでは対人距離の取り方が違うから、自立のイメージも違っていいような気がしているのですが。

片山 本当の自立とは、多分特定の価値観にしがみつ়くことではないはずだと思っんです。普通は特定の価値観を作り上げることが「自立」とされているけど、それから自由であることがほんとうの「自立」でないかと。子どもからも結婚相手からも自由であることが自立であるはずなんです。

稲邑 人との間のとりかたがうまくできれば、「自立」もうまくいくということですか？

片山 あらゆる人から距離をとれる。誰とも親しいけど、誰ともべったりではないようなのが完全な自立だと

思うんですが。距離がうまくとれば、余分なぶつかりあいはない。まあ、でもぶつかるのは悪いわけではないですから、それを含めて喜びと思えばそれはそれでいいんですけれど。それが出来れば「最終解脱」(？)かもしれない。

稲邑 その人によって、間合いが近くても平気だったり遠くないと駄目だったり、個人差がありますよね。

片山 日本人は特に間合いが遠くないとたないようですね。緊張感を和らげるために距離をとる。日本は自然に対しても人に対しても対立感が希薄です。同じ「気」と言っても、気と言えば即「パワー」を意味する中国とは違って「関係性」とか「間合い」とかいう感じなんです。 「気」というのが、人と人との間にあるという感覚が強いわけです。

人間関係の間合いの取り方から言えば、欧米だけでなく中国や韓国の人なども間合いがぐんと近くなる。つまりうんと仲良くするか、徹底的に争うかで、極端に言えば間合いはゼロか無限大のオール・オア・ナッシングになります。つまり人間関係が「熱い」わけです。お互いの間合いの取り方の違いを認めてしまえば、それなりに

つきあうこともできると思うんです。

稲邑 バリアーが強ければ、跳ね返せるけど、入ってくるなど言えないから、距離をとらざるを得ないという。

片山 人と人との間の「気」的なつながりが敏感すぎると、要するに、干渉されない一人の空間を作るのが大事なんです。すごく敏感な人は、誰かと同じ部屋に住むのもきつかったりする。誰も入ってこない空間を保障されていないと安心できない。

稲邑 あまりそれが強いと生きづらいわけですよね。この頃の若い人はだんだんそういう傾向が強くなっているんじゃないですか。

片山 そうですね。ファッションを気にするというのは、着る物を一種の鎧にするんですね、バリアーにする。自分自身で守りきれないものをそういうもので守ろうとする。過敏な人は近所の買物でも、家の中で着ているのと違うものを着て出かけないといられなかったりします。

*姿勢を変えると意識が変わる

稲邑 『気ウオッチング』に、お子さんの登校拒否のときのことを書いていらっしやいました。「学校に通い始める少し前に側に寄りついてきて、じつとうつむいている

ときがあったので、そっとしばらく抱いてあげた。親としてはその時その時適度な間合いで接するしかない」と。**片山** 病気のときも同じですね。どうしても心配で意識がそこに集まってしまう。解決するのはそれがふっと抜けたときですよ。子どもとの間の間合いをとるのはすごく難しいですから、それができれば他のことは楽勝です。自分の子だから心配なんです。自分の子を隣の子を見ているようにいられればいい。もつと難しいのは自分自身に対してなんですが、それもちよつと引いたところで見られると楽になる。

例えば、登校拒否のお子さんが来たとき、お母さんに「子どもの肩に手を置いて、自分の体を一回ぐつと後ろに引いてみて下さい」と言います。そうすると、たいてい、体を引き離すことが出来ない、からだを引き離すときすごく力があるんですね。そこを、あえてぐつと引き離して、少しづつ緩めていってもらおう。すると間合いが緩んでふつと楽になります。子どもを目の前にしたからだの姿勢、からだの力の入りかたに意識が結びついている。一生懸命何か考えていると、首や足首に力が入る。姿勢を変えると意識が変わります。意識を変えることを

一生懸命やると堂々めぐりになるので、意識的な面で距離を取るのだからだの姿勢の両面でやっていくといいんですね。

例えば神経症の状態の人は、何でも急いでやろうとする。いま急いでやらないと後で出来なくなるのではという強迫で、からだの状態が重心が前に傾いている。それを一歩遅らせることよつてからだの緊張が緩む。電車を一台遅らせるとかワンテンポ後ろにずらすことで、一日のリズムが変わってくる。よく考えてみるとほとんどこのことはどうでもいいことなんですよ。一生懸命になりすぎていることに気がつけば、気持ちの切り替えができる。自分にとっては一大事なんだけど、ほかの人にとってはどうでもいいことがほとんどだと思えます。

稲邑 普段から自分のからだの緊張度に敏感であれば、「ああ、またやつてしまった」と気づきやすいということなんですよ。

片山 いずれにしろ自分がいいと思っている状態も悪いと思つている状態もずつとは続かない。エネルギーが素直に出ているほど、波の変化が激しく出てくる。

どういふふうに生きても、最後に死ぬわけだから、そ

のあいだをどういふふうに味わいつくすのかということなんですよ。自分が生まれて来ちゃったのはしかたないですから。

*何もしないでいられたら

稲邑 二年ぐらい、お休みしていらつしやいましたね。
片山 三年前、集中力がなくなつてきて、情性みたいな状態になり、止めたのです。その半年ほど前から、無理して集中しようとするようになり、これは仕事を減らして考える時間を作つたほうがいいとは思つていたのが、あるところまで行つて爆発し、一切止めてしまおうと思つたんです。そう思つたら急からだの力が抜けて、体温も三五度に下がり、力が入らない。今考えてみると、組み変えなくてはならない状況があつたんですね。

そう思つていろんな人を見てみると、十年に二年ぐら

いはそういうリストラみたいな期間があるみたいです。

若いときは気づかないですんでしまうけど、ある程度の

年齢になると、そういうことがはつきり出る時期がある。一年間は完全に休んで、ぼーつとして、本を書いてい

た。でも、半年は訳のわからないことを書いていましたね。後半の半年も自分ではまともな状態だと思つていた

けど、今振り返ると、そのあいだも時間感覚がぐちゃぐちゃで、混沌としている。たがが外れた状態でした。普通は治療中に、「氣」が通ってくるといろいろひらめいてくるのですが、そのひらめくことが消えていたんです。一年ぐらいたってやっとその感覚が戻ってきたけど、それが消えたときには自分では気がつかなかったんですね。こういう仕事も最初は勢いだけでできるけど、あるところまでなると勢いだけではできないんだと思います。

そのときは、このままばーつと何もしないで一生行かれたらいいなと思った。それは、もともと若いときからの望みでもあったのだけど、まだその境地まで到達していないこともわかりました。まだ、何かを捨てる必要があるんでしょね、きつと。技術的に余分なことをしないで、ただいるだけで何かが伝わってお互い楽になるというのが、いちばんいいと思うんですが。

稲邑 自然に共鳴してしまうという？

片山 そう、そういうふうになれればいいけど。

稲邑 最首悟さんが、「障害」児の存在が、人間が「協同性」を取り戻していく試みの核になるだろうと話しているらしいんですけど、いま、ふっと思い出しましたが。

片山 「障害」が大きいほど、氣的レベルのコミュニケーションは豊かです。「障害」のある子どもに氣を通すとお母さんのからだに同じ反応が起きる。お母さんの感受性でもあるのだけど、彼らは氣的共鳴を引き起こす力を持っているんです。でも、「障害」がなくても、同じような存在の人がいる。もともと何もしないという人がいるんですよ。

稲邑 欲のない人ね。でも、欲とか執着がないと、いわゆる役に立つことはできないから、非難される。

片山 他の人と同じようにしなければと周りから言われるので、本人はたいへんなのです。でも、そういう無理をしない人は、自分の好きなことをやって生きていくから、人を攻撃しないでしょね。そういう人は亡くなるるときも明るいから、周りも、ああ、好きなことやって死んじゃったという感じで、氣が楽です。自分を曲げて無理に頑張ってきた人が死ぬと、重苦しい。

僕はね、そういう何もしないでいる人がもうちょっと大事にされるようになればいいと思っている。そこらあたりが、本にするときに、いちばん書きたかったことなんです。

「トミー物語」

私のクラスにトミーという子がいます。いま、一番憎たらしくもあり、心配でもあり、また、かわいい生徒のひとりです。わがままな気分屋で、集中力はあるけど長続きしない、好き嫌いが強い、けれど、とても個性的でユニークな子です。

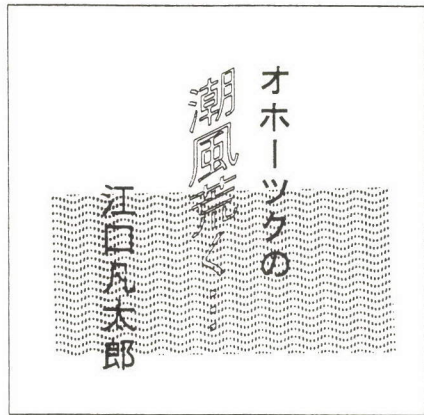
「遅刻王トミー」

最近は何とんどありませんが、一時期、ほとんど毎日のように遅刻して来て、私が言っても、さっぱり変わりありませんでした（私自身、高校時代毎日遅刻していたので、力が入らないせいもあります）。

「料理の鉄人トミー」

好きなことはとことんやるトミーの秀でた一芸は、料理全般です。

特にお菓子作りはかなりのもので、料理の実技テストで白鳥のシュークリ



ームを手際よく作り、周りを圧倒しました。たまに、自分で作ったお菓子を友だちや気に入った先生に振る舞っています。私もたまに「馳走になります。いつも一個しかくれません。ここが、トミーらしさです。口うるさくかまう担任には一個はあげるけど、それ以上の必要を感じていないのでしょうか。長期休業には必ず、ケーキやさんでア

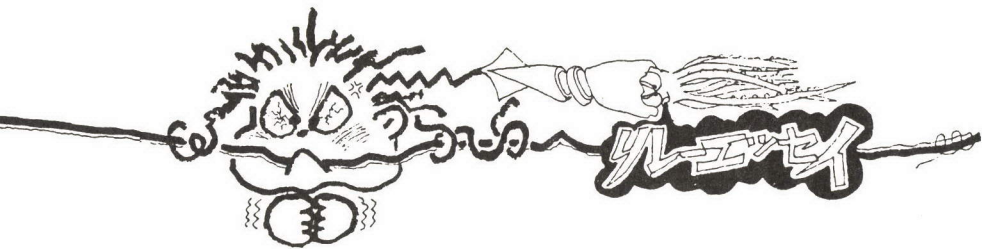
ルバイトをしています。

「赤点トミー」になるのか？

二年生になって、トミーの赤点の数は増えました。好き嫌いがはっきりしているのが、嫌いな科目・先生の授業はノートも書かず、勉強もしません。

進級をかけたテストでも、あまり努力せず一桁得点を出し、特に簿記では「このままでは単位認定できない」と教科の先生にはっきり言われてしまいました。テストの終了直後に「話がある」と呼んでも、パイと腹を立てて、話を聞きません。しかし、「放課後、一度帰って未提出のノートを取りに行き、戻ってから話をする」と自分から言いに来て、本当に、暗くなってから学校に来て、私や教科担任から進級についての話を聞いていました。

トミーは進級できるのか？ これは本人次第なのです。



筒井康隆断筆事件以来、「差別」をめぐる人々の関心は高まったように見える。たとえば職場の雑談のレベルでも、こんな発言が飛び出すほどには——。「他から批判されない立場にある組織が、他を批判することは好ましくない」。この言葉に含まれるニュアンスを簡単にまとめれば、次のようなことになる。反差別の立場をとる組織は、差別はよろしくない、という大義名分を掲げている。彼らは、そうした大義名分に寄りかかって自分たちの立場を絶対化し、絶対化した立場から他を批判する。これは卑怯なことではないのか。

まったく、論理的なふうを装ってはいるが、完全に感覚的な反応だ。こういう差別的な思考には、論理的にきちんとカタをつけてやらなければならない。ポイントは二つだ。①反差別の立場をとる組織は、他からの批判を許さないほど自らの立場を絶対化しているのか。②仮にそうだったとして、他を批判するという行為は好ましくないことなのか。

まず第一。「差別」には個別具体的な実体がある。女性であることで差別されたり、肉体的に何らかの障害があることで差別されたり、あるいは出自や民族を理由として差別されたり……。したがって「反差別」の立場も、「反差別」として一括りにできる抽象的なものではあり得ず、それぞれの差別に応じた個別具体的なものとならざるを得ない。ある差別に反対の立場をとるということは、だから、個別具体的であるがゆえの強みと弱みをあわせ持つことになるのだ。女性差別には敏感でも民俗差別には鈍感……などといった狭い認識が生じてくる理由は、まさにここにある。ただ急いで書いておけば、こうした認

差別問題に関して思ういくつかのこと

柴崎昭則

刃が怒リニグ

識は最低水準なのであり、反差別の立場をとる多くの組織はこうした問題点を自覚している。自覚していなければ、様々な反差別の立場をとる組織が共闘することなどできないだろう。もし自分たちの立場を絶対化している組織があるなら、その点を批判すればいいだけのことだ。

次に第二。複雑かつ錯綜した現代社会においては、以心伝心でわかりあえるような「仲よしな」関係性は成立し得ない。だからこそ、お互いの立場の理解を深めるために相互批判が不可欠なのだ。さまざまな反差別の立場からの批判は、しばしば「ヒステリック」であるとか「行きすぎ」であるとして論難される。冒頭取り上げた雑談でも、そうした雰囲気は濃厚に漂っていた。しかし反差別の立場からの批判は、あくまでも言論の枠内で行われているのであり、問答無用とばかりに銃をぶっ放しているわけではない。差別される側が現代社会においては圧倒的に少数である以上、その物言いがきつくなるのは当たり前のことだ。きつく言わなければ多数派には通じない。どんな立場からの批判であっても、批判は謙虚に受けとめ、相手が間違っていると判断したら反批判する。こうした批判―反批判の繰り返しのなかから共通の認識が生まれてくる、というのが現代社会の（まだるっこしくはあるが）ルールなのだ。

冒頭のような発言を聞くにつけ、差別する側は、自分で勝手に作りあげた幻想に脅えているのだな、とつくづく思う。感覚に頼りきり、論理的な思考ができなくなっているのだろう。ちなみに、冒頭の雑談は実話である。私は、ある報道機関に勤めている。

木を植えた日

—今は昔IV

蒔田直子

昨年の九月九日、檢察はナターシヤさんに対して「殺人」で12年の論告求刑を行なつた。一カ月後の十月十一日、二時間半にわたる弁護側の最終弁論。

その数日後、ナターシヤさんに面会するために大阪拘留所にむかう淀川べりの道を歩いた。落葉がカサカサと足の下で音を立て、川の水が午後の日ざしにまぶしく光つた。

15年前の一九八〇年から数年間、この同じ道を、韓国、濟洲島から「密入国」し東大阪で七年間働き、一人の女

性を死なせてしまった玄さんという青年に会うために何度も歩いた。玄さんは私たちに宛てて週二、三回のペースで手紙を送つてきた。最高裁まで争つた数年の最後の二年、彼は手紙の中で「自分を韓国人「密航者」としてではなく殺人者として向き合つてくれ」と宣言した。玄さんも23歳。確かに同時代を身悶えするように生きた彼との時間が、きのうのことのように蘇つた。

玄さんの事件は、私のつれあいのバクさんが中学校の教員になつた年、その校区の中でおこつた。町工場とアパートが密集する東大阪の町、玄さんは在日朝鮮人のささやかな「成功者」が営むバッテリー再生工場で、毎日十一時間の労働と小さな部屋の往復をして十代を終えた。彼と面識があつたわけではない。新聞に三段めきで出た「日本人主婦を殺した密入国者」の記事が、

あまりにセンセーショナルだったから、じつとしておれなくて、すでに決まつていた国選弁護人を探し出し、しつこく訪ねることから始まつた。

玄さんの裁判とナターシヤさんの裁判にはたくさんの共通点がある。日本の時間が長くても、ほとんど日本語がわからない二人の取り調べにおける通訳問題（玄さんは通訳なしだった）。「密入国したあげく日本人主婦を殺害に至つた朝鮮人」や「超過滞在で売春していたタイ女性」に対し、あらかじめ作り上げられた不自然な事件の筋書き。玄さんが死に至らしめた女性は、彼と性的関係にあり、同じ末端のパート労働者だつた。ナターシヤさんも玄さんも、自分を直接に傷めつけたら搾取した相手ではなく、同じ生活空間の中で近い関係にある人を殺してしまつた。

玄さんの裁判では、被害者が死の直前までつけていた家計簿と、部屋にあった現金の二千円の誤差！を根拠に「強盗殺人」で無期を主張する検察と、「傷害致死」を主張する私たちとの真つ向からの対決になった。「玄さんを支援する会」を始めた時、政治犯の救援運動をやっているような人たちからも、単なる殺人犯やないか」と支持されなかった。地つづきの町の中で「密入国者」の現実をまともにひきうけて人を殺すまで追いつめられ、「暗闇裁判」で不当に裁かれる人間は、政治犯とはちがうのだろうか。

ナターシャさんの論告求刑の時、検察が最初に強調したのは、この事件は単なるタイ人同士のいさかいで、売春を強要され、監禁から逃れるために監視者を殺した他の事件（下館事件や茂原事件のことをさしているのだろうか）

とはちがうということだった。茂原、新小岩、下館といった事件が人身売買と強制管理売春、監禁と強姦の暴力の所産なら、ナターシャさん事件はその延長の生活、監禁から逃れた後の超過滞在と無国籍の子供を抱えて売春するしか術のない地獄の中から生まれた。論告求刑は十分で終わった。「あぶく銭は身につかないのとたとえどおり、

日本から持ち帰った金を三カ月で使い果たし、柳の下[・]の[・]二[・]匹[・]め[・]の[・]ド[・]ジ[・]ョ[・]ウ[・]を求めて、不法滞在の意図のもとに、再度来日し、罪を承知の上売春していた」——こう検察官が言った時、二年半の裁判で何ひとつ聞いていなかったこの男に激しい憎しみを覚えた。

十月の最終弁論。子どもたちの父親が失踪した後、部屋に赤ちゃん[・]が二人、彼女は大量の睡眠薬で「何もかも忘れ」町に立つ。戻ってくると、朦朧とし

たままスリッパを冷蔵庫に入れたり、部屋をぐるぐる歩き回る。その昼の惨劇が再現された時、私は叫び声をかみころし、吐きそうになるのを押さえた。二時間をこえた弁論の最後に、ナターシャさんが立った。

「私はいつの日かまた自分の子どもたちと会うことができます。けれど私が殺してしまったWさんは、もう二度と子どもと会うことも抱きしめることもできません。私の一生をかけてもWさんにあやまることはできません——このような私をささえてくださった支援のみなさま、私は事件をおすすままでどこにいても眠ることも食べることもできませんでした。みなさまが私のところへ来てくださったつてから、人の心のあたたかさを初めて知りました。私は拘留所の中で初めて眠り、初めてものを食べました……」。

傍聴席から嗚咽がもれた。まっすぐに立って顔をあげたナターシャさんの、それは「人間宣言」だった。

数日後、拘留所のプラスチックの壁を隔て、黄色いカーディガンを着て、洗い流したような表情のナターシャさんが私の目の前に座った。

「どんな刑でも受けて、控訴はしません。刑務所でいろんなことを勉強したいです。ミシンもできるようにしたい。タイへ帰って子どもとくらし、ほかの女の子たちが私のようにならないよう、タイの子どものために働きたいです」。

中年の女性看守がメモを取っている。「私が日本の字を一人で勉強していると、この看守先生が、人という字はささえあって『人』になってるねと教えてくれました。ほんとうですね」。

看守とナターシャさんは微笑みあつ

た。ナターシャさんはすでに、私たちの同情の対象である「かわいそうな少女女性」ではなかった。

三月一日、ナターシャさんに「未必的殺意」による「短絡的な犯行」として懲役八年の実刑判決が言い渡された。

捜査段階での誤訳によって作り上げられた「殺意」も、睡眠薬による「心神耗弱」「過剰防衛」もただひとつ、

これを認められないとされた。長い時間を費やして主張してきた日本社会でタイ人女性が追いこまれた状況や、タイ社会の背景は「生いたち」のひとつとでかたづけられ、失踪した子どもたちの父親には一切触れることすらなかった。裁判官は一度もナターシャさんの顔を見ず、聞きとれない小声でうつむいたまま判決を読み上げた。

論告求刑の時点でナターシャさんは「控訴はしない」という意志を固めて

いた。被告側から控訴すると拘留期間は刑期に算入されないということも初めて知った。刑が確定すると肉親以外とは文通も面会も許されない。彼女はすでに和歌山刑務所に下獄し、私たちとの交流の道は断ち切られた。

春、もう一つの裁判が始まろうとしている。弁護団の執念？ で、九州で見つけ出された子どもたちの父親に対する強制認知の裁判である。認知して子どもが日本国籍を取得できるわけでもなく、父親が育てるわけではない。一度も裁かれない「日本人男」への道義を問う裁判が始まる。

子どもたちの認知裁判のためのカンパをお願いします。

（郵便振替）

00980-9-133811

ナターシャさん母子を見守る会



ナターシャさんからの手紙

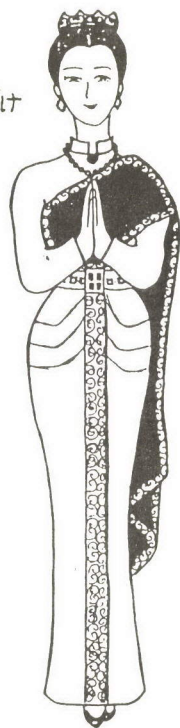
A さん, K さん, I さん, M 先生様,
T さん, T さん, S さん, M さん, M さん
M さん, N さん, U さん, O さん, G さん
S さん, M さん, M さん, A マスターや
マスターの皆木様, 5人弁護士の皆木様, とほかのボランティア
の皆木様へ。平成4年の5月から今まででよく3年明け、と言う
長いごうちしの生活もやっと終わろうとしています。でも
私の本当の罪の償いは今から始まろうとしています, 刑務所
の生活は辛く厳しいかも知れませんが私もボランティアの
皆さんの励ましを月圓にのり元氣張って行きます。そして一日も
早く社会に帰り我が子を大七刀に育てて行くつもりです。
皆さんが私に下さった事は一生忘れません, 私が皆木様から
人見しの優しい気持ちや助け合う心を学ばせていただきました。
その教えを忘れず皆木様のよくな温かな人になりたいと思っています。
今までいろんな服やきれいなここでの生活に必要な日用品
を買うお金をさいれ下さり私は何となく生活をおくる
事ができました。皆木様には沢山のお金や時間を
使わせてまいとしてそのお礼をする事ができなく
大変申し訳なく思っています。辛く淋しい生活の中で
皆木様の温かな励ましのお手紙や面会として私が
一番愛する子供の写真や子供達連れて来
下さったりとても勇気つけられました
皆木様の応援があったが



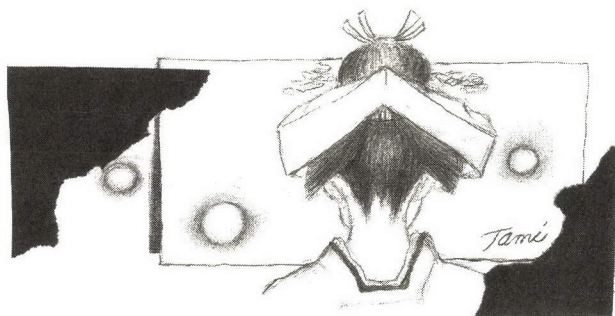
こも私は元気で張ってこれました。本当に皆木様の事は
 一生忘れません 手紙ではうまく伝える事ができません
 が本当に有難う御座りました。私がタイへ帰ると皆木様に
 手紙を出しますね。皆木様一度タイにあとびに来て下さい
 日本も素張りいですがタイの国も美しいですよ、私は
 刑務所に行っても皆木様の事ずーっと忘れません 皆木
 様に幸あるように毎日皆木様に祈りますね。皆木様と合えなく
 なるのはとても淋しいと思っていますが ちがひ 将来合える
 事をたのしみに元気で張ります。まだまだ寒いですが皆木様お体
 にはくれぐれもお気をつけて下さい。さようなら。

ナターシャ・サミツマーン

P.S. おもとひきうけにんの事ですがありがたくお持ちだけ
 いただきます。 と ではとおつぎます。
 お金もかかるし私は心苦しいです私ならもう
 だいじょうぶですのでご安心して下さい
 私の子供達の事だけ宜しくお願ひいたします。
 もし A とんと皆木様に感謝の気持ちと
 お礼をこめてこの絵を書きました
 この絵は皆木様に幸せがありますように
 と願うをこめた絵です。
 誠にありがとうございました。



この手紙はナターシャさんが和歌山刑務所に移管する直前に、
 支援して下さった方々へ書かれたお礼の手紙です。「ナター
 シャさん母子を見守る会」のご好意で、人命・地名は伏せ、全
 文掲載します。カットはナターシャさん本人によるものです



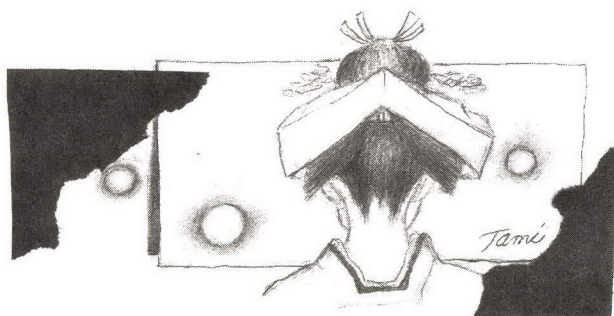
居場所考⑩

小津の映画における家族の物語 …………… 水田宗子

小津安二郎は生涯独身で子供もなく、いわゆる家族を作らなかった人だが、なぜ、家族ばかりを描きつづけたのだろうか。

小津が執拗に描いてきたのは、娘を嫁入りさせる父親の物語である。母親が早く死んでしまい、父親と弟妹の世話をして婚期を逸してしまいそうな娘を心配して、結婚相手を探し、渋る娘を説得して、話をまとめ、花嫁として送り出す。娘を嫁がせたその夜の父親の孤独と感慨。娘のいなくなった家のうつろな空間。このようなシチュエーションが、作品によって少しずつの違いはあっても、記憶の中でいつのまにか混在してしまうほど、何度も繰り返し設定され、独特な小津の映像の世界を作り上げているのである。

その好例である『晩春』（一九四九）や『麦秋』（一九五一）などは、したがって、家族物語というよりは、父と娘の物語として見られがちである。父と娘の物語は、西欧の家族物語の中心を占める母と息子の物語と対をなすものとして、家族の深層を形づくっている。日本の父と娘の物語に西欧のそのバリエーションがないことはないが、それはコン

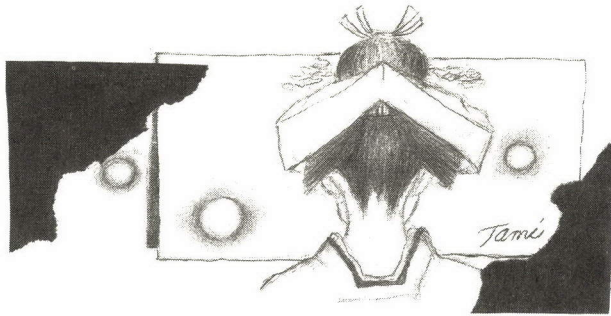


ブレックスというには、あまりにエロスの匂いの希薄な、淡泊なもので、むしろ家制度の中で権力をもつ父に可愛がられる娘の物語、あるいは父の犠牲になる娘の物語という内容をより多く持っているようだ。

小津の世界では、父と娘は確かにエロスを漂わせている。だがそのエロスは、男が女に抱く感情や欲望というよりは、夫が妻に持つ安寧と愛着の漂う雰囲気といったほうがよい。母親のいない家族の中で娘が果たしてきたことは、母親の代わりなのである。セックスを除けば、夫にとってさえ妻とは母親代りである日本の家族においては、父親にとってはなおさら、娘は妻と母親の役割を果たす存在として愛情の対象となってきたのである。性が希薄になっていく初老の父親にとっては、娘と暮らすことは、そのまま古女房と暮らすのと同じように心地良い、安寧と愛着を覚える日々であろう。小津の父親が娘に見るのは、女なのではなく、妻なのである。

それだからこそ、父親は娘にたいして不憫な気持ちを抱かずにはおれない。母親のいない家庭で、娘であることを享受できなかった娘。父親の妻役を引き受けたために、ほかの男の、性を伴った妻になれないかもしれない娘。弟や妹の母親代わりをしていたために、自分の子どもを産んで母親になることを逸したかもしれない娘。小津の父親が娘に抱く不憫の思いは、あくまでも家族という役割集団における父親としてのものであり、妻として、母としての娘へのそれなのである。そこでは、父と娘の個人としての欲望もエロスも二の次というより、ほとんど顧みられていない。父も娘もそこに居場所を持っていない。それを持つためには、人は家族の外に出ていかなければならないのである。

小津の描く世界では、母が不在である。小津の父と娘の物語の前提には、母の不在があ



る。母親の役割は、娘によって代行される。父親は、娘にたいして母親役をしなければならぬことを悟って、娘のために結婚という儀式を執り行う。しかし、娘にとっての母とは、単なる家事の担い手としての母親というものではない、自分が女へと成長する過程で内面的に複雑な役割を果たす重要な存在なので、父による代役のきくものではない。母不在の娘が、どのような女に成長し、どのような家庭を作り、妻になり、母になっていくのか、小津の家族物語の中に、その物語のスペースは不在である。小津の映画で、父は娘の女への成長を妨げる存在である。娘を男と結婚させ、自らは性不在の独身老人となって終わる小津の世界は、家族の崩壊、あるいは終焉を意味している。

それはどのような家族の崩壊か。小津の描いた家族は、そもそもが性を持つ妻の不在の上になり立っている。小津のドラマの終結が意味する家族の崩壊とは、役割によって成り立ち、性を役割の中に埋没させていた家族の、性を持つ男女が作る家族へ向かっての崩壊である。そして、その性を持つ男女が作る家族が男にとっても女にとっても理想郷でなかったことは、一九六〇年代以後に明確な形をとって現れてくる、都市中産階級の核家族における男女の問題を見ても明らかである。

小津が描く家族の崩壊が、ノスタルジアに満ちているというよりは、希望のない世界へ向かっての悲観と絶望に満ちているのは、来るべき家族像が悲惨なものであることを、小津が予見していたからだろう。一九五三年に作られた『東京物語』は、東京の変貌を描くと同時に、家族の変貌を描く作品だが、そこではすでに古い父―母は退場を決定的にされていて、父―母不在の家族が主役になっているのだが、その新しい家族物語では、核家族における主婦という、新しい役割を背負った女の修羅場が、すでに暗示されている。

◆たくましい、短気、反動的行動 e t c。
 思い当たることばかり。7種、振れ型＝
 泌尿器型。体癖表を見て、振れていると
 言われても何の疑問もないけれど、私の
 人生は泌尿器に司られていたのかと唖っ
 てしまった。基礎体力はあるけれど、基
 礎学力はない自覚はあって、頭脳を頼み
 にはしなかつたけれど、それにしても
 思いがけないところに……。家族から、
 何につけても他人のせいにするとは非難を
 浴びているが、それが何に起因するのか
 教えてあげよう。(吉田)

♥離人症というのがどんなものかわから
 ないが、自分がその場からすーっと離れ
 て傍観者になっていることは時々ある。

ただ、大江さんと武田さんと違うのは、
 意識がクリアになるのではなく、普段
 にも増して頭の中がもわーっとしてしま
 うというところ。他人から見たら、危な
 いと思われるかな……。思考がほぼ停止
 のその時でも、映像として記憶する能力
 は発揮され、自分とは違う位置からみた
 画面に、頭空っぽ状態の自分の姿が映っ
 ている。こんな体験、私だけ？(山下)

♠私はエネルギー過剰で、無意識のうち
 に人を振り回して傷つけてしまうらしい。
 ちょっと気づくのが遅かったけど、気づ
 いただけましとしよう。体癖でいうと6
 種。そう言えばいつも何か起きるのを待
 っている。考えるとすぐ煮つまって爆発し
 てしまうし。子どもを育てながら、そん
 なわが身のありようを反省し、穏やかに
 淡々と暮らしたいなんて思うのだけれど、
 それは諦めるしかないらしい。ならばせ
 めて…なるべく…害は与えないようにし
 たい(というのがせつない願望)。(中村)

♣誰が一番先に編集後記を書くか、どう
 しても後回しになって、土壇場になると
 ゆっくりネタを考える暇もないから、人
 が書いたものをヒントにして書こうとい
 うのが、誰も魂胆。今回は珍しく稲邑
 さんの出来が早かった。最後にワープロ
 を打つ私は皆のを必然的に読むわけだけ
 ど、ナンダッ、今回は体癖の話ばかり
 ではないか、天の邪鬼の私は当然他のこ
 とを書きたくなる。なんて書くと、「あ
 の人は8種の振れだからね」なんて、陰
 で言うに違いない。ヤダネー。(河村)

★私は根が「過敏」な質だから(追いつ
 められると開き直って「執着」するの
 で辛うじて雑誌の発行は続いているが)、
 人の余剰エネルギーを浴びやすい。西洋
 心理学では、バリアーを強化して、叩き
 返すのを奨励するが、来る者は拒まずで
 フニャフニャしながら通過させるとか、
 ぱっとかわして相手の力を利用するとか、
 そういうほうが私には向いている。そう
 いえば、20年以上前、合気道の道場に
 半年間通い詰めたことがあったっけ。ま
 た武道でもやりたいなあ。(稲邑)

㊦毎月第一日曜日、楽しくおしゃべりし
 ながら、発送作業をしますので、ぜひい
 らして下さい(日程の変更もありますの
 で、事前に必ずご連絡を)。6月号の発
 送日は6月4日の予定です。新事務所を
 見学がてら、ぜひお手伝いください。

㊦購読の更新の手続きがまだの方は、今
 すぐお願いいたします。ご連絡のない方
 にお送りするのも、今月号で最後になり
 ます。引き続きご購入下さいませようお
 願いいたします。請求が行き違いになり
 ましたときはお許しください。(編集室)

くらしと教育をつなぐ—We

Vol. 4 No. 2 1995年5月1日発行

定価600円(本体583円)

年間購読料/定価6800円(送料共)

発行/フェミックス 編集/稲邑恭子 河村ふみ 中村泰子

〒154 東京都世田谷区池尻3-2-3

サンケイグランドハイツ703

TEL/FAX 03-3424-3603

郵便振替 00130-7-754314 (有)フェミックス

印刷/(有)イー・エム・ピー 千代田区数田橋2-5-2

やりたいことを仕事にしました

道に迷うための地図になりたい



Femix フェミックス

月刊誌『くらしと教育をつなぐWe』の編集を続けてきた中で
「We」が追い続けてきたテーマをもっと深めたい
もっと 人と人との生きたつながりをダイナミックに創っていききたい
という思いから
新しく会社を創りました
これまで「We」の編集を通じてたくわえてきた
人脈 情報 多様な視点etc……を「資本」に
そしてスタッフが平行して関わってきた
「フェミニストセラピィ」のカウンセラーとしての実績をリンクさせて
いま 私たち自身が一番の関心事がテーマの仕事ですから
熱い仕事をお約束します
『くらしと教育をつなぐWe』の発行と
カウンセリングを二本柱とします
編集とカウンセリングという二つの事業が
フェミックスの両輪として
互いに補い合い 刺激し合って より深いメッセージを生み出します
あなたに伝えたいことが わたしにはあります

Femix フェミックス



くらしと教育をつなぐWe 1995年5月1日発行 第4巻第2号
定価600円(本体583円 年間購読6800円送料共)
郵便振替 00130-7-754314 フェミックス